第４章　市民等の移動実態・ニーズ

４－１　調査の実施概要

以下の通り、市民等の外出行動や公共交通の利用実態、移動への満足度や将来への不安等を把握するため、５つの調査を実施しました。

また、市民アンケート調査を補完するため、立地適正化計画策定時の市民アンケート調査（平成 28 年度実施）を参考としたほか、隣接する荒尾市、みやま市から大牟田市への移動実態等を把握するため、荒尾市・みやま市で実施したアンケート調査も参考とします。

①市民アンケート調査

調査目的	大牟田市全域を対象とし、市民の移動実態や移動への満足度、将来への不安等を把握するため
調査方法	市内居住者を対象とした郵送配布、郵送回収
調査日	配布時期：2017 年 8 月末（8 月 31 日(木)に発送） 回収時期：2017 年 9 月上旬～中旬（9 月 15 日（金）返送期限）
配布数	1,000 票（大牟田市在住の 15 歳以上の 1,000 人に送付）
回収数	330 票（回収率：33%）

②公共交通利用者アンケート調査

調査目的	公共交通利用者の移動実態や移動への満足度、将来への不安等を把握するため
調査方法	大牟田駅（東口、西口）での路線バス利用者への直接配布、郵送回収
調査日	配布日：2017 年 9 月 8 日(金) 回収時期：2017 年 9 月 8 日（金）～中旬（9 月 15 日（金）返送期限）
配布数	250 票（大牟田駅東口：150 票、大牟田駅西口：100 票）
回収数	72 票（回収率：28.8%）　※大牟田駅東口：57 票（回収率：38%）、大牟田駅西口：15 票（回収率：15%）

③買い物施設来訪者アンケート調査

調査目的	買い物施設来訪者の移動実態や移動への満足度、将来への不安等を把握するため
調査方法	ゆめタウン大牟田、マミーズ今山店での来訪者への直接配布
調査日	配布日：2017 年 9 月 8 日(金) 回収時期：2017 年 9 月 8 日（金）～中旬（9 月 15 日（金）返送期限）
配布数	300 票（ゆめタウン大牟田：150 票、マミーズ今山店：150 票）
回収数	56 票（回収率：18.7%）　※ゆめタウン大牟田：29 票（回収率：19%）、マミーズ今山店：27 票（回収率：18%）

④市内高校等通学者アンケート調査

調査目的	市内に通学する高校生（高等専門学校生含む）の登下校実態、公共交通へのニーズ等を把握するため
調査方法	市内に立地する 8 校 2 年生を対象に、生徒への配布によるアンケート調査を実施
調査日	配布日：2017 年 9 月～10 月上旬　※学校により実施時期は異なる 回収時期：2017 年 9 月中旬～10 月上旬　※学校により実施時期は異なる
配布数	1,712 票（8 校分）
回収数	1,616 票（8 校分）（回収率：94%）

⑤観光来訪者 Web アンケート調査

調査目的	大牟田市への観光目的来訪者の移動や周遊の実態・ニーズ等を把握するため
調査方法	九州各県内居住者で大牟田市又は荒尾市に観光来訪経験のある 15 歳以上（ただし、大牟田市内及び沖縄県居住者を除く）を対象に、Web アンケート調査を実施
調査日	実施期間：2017 年 11 月 3 日（金）～11 月 6 日（月）
回収数	206 サンプル

＜参考とする他調査＞

⑥大牟田市立地適正化計画策定時のアンケート調査

…平成 28 年度実施、大牟田市内居住の 18 歳以上を対象

⑦荒尾市における市民アンケート調査

…今年度実施（実施主体：荒尾市）

⑧荒尾市における高校生アンケート調査

…今年度実施（実施主体：荒尾市）

⑨みやま市における市民アンケート調査

…今年度実施（実施主体：みやま市）

＜市民アンケート調査における地域分類、地域別配布・回収状況＞

・地域分類は、道路網や公共交通網、地域特性を踏まえ、地域別の特性を把握するため、4 地域（中央地域、東部地域、北部地域、南部地域）に分類しました。

・配布、回収状況は以下の通りです。

地域	年齢層	人口（人）
1.中央地域	15-64歳	17,104
	65歳以上	9,898
	無回答	－
	合計	**27,002**
2.東部地域	15-64歳	18,131
	65歳以上	12,269
	無回答	－
	合計	**30,400**
3.北部地域	15-64歳	12,642
	65歳以上	8,188
	無回答	－
	合計	**20,830**
4.南部地域	15-64歳	15,039
	65歳以上	10,779
	無回答	－
	合計	**25,818**
地区無回答	15-64歳	－
	65歳以上	－
	無回答	－
	合計	－
合計	15-64歳	62,916
	65歳以上	41,134
	無回答	－
	総計	104,050

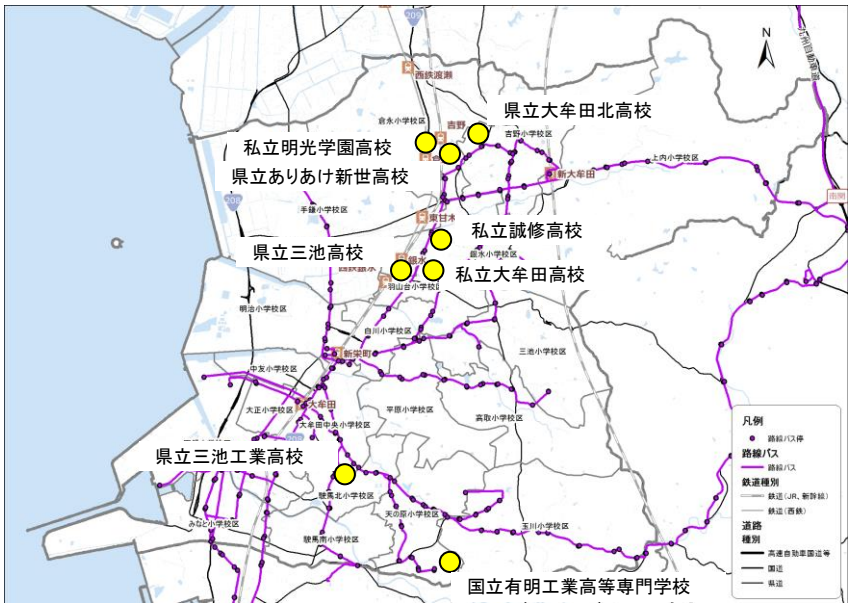
配布数	回収数	回収率
146	36	24.7%
112	47	42.0%
－	1	－
258	**84**	**32.6%**
155	42	27.1%
138	53	38.4%
－	0	－
293	**95**	**32.4%**
108	29	26.9%
92	34	37.0%
－	0	－
200	**63**	**31.5%**
128	29	22.7%
121	49	40.5%
－	0	－
249	**78**	**31.3%**
－	1	－
－	5	－
－	4	－
－	10	－
537	137	25.5%
463	188	40.6%
－	5	－
1000	330	33.0%

※人口は平成29年4月1日時点の住民基本台帳より、配布数は地域ごとの人口按分で設定
※出典：大牟田市HP（住民基本台帳）

＜市内高校等通学者アンケート調査の学校別配布・回収状況＞

・市内高校等通学者アンケート調査の配布、回収状況は以下の通りです。

高校名	配布数	回収数	回収率
県立三池高校	200	190	95%
私立明光学園高校	80	71	89%
県立ありあけ新世高校	160	160	100%
私立大牟田高校	450	406	90%
県立大牟田北高校	160	149	93%
県立三池工業高校	200	195	98%
私立誠修高校	240	225	94%
国立有明工業高等専門学校	222	220	99%
合計（8校）	1712	1616	94%



４−２　市民アンケート調査結果

（１）回答者の個人属性

回答者の属性（性別・年代・職業）は以下の通りとなっています。
回答者は高齢者（65 歳以上）が過半数を占めています。

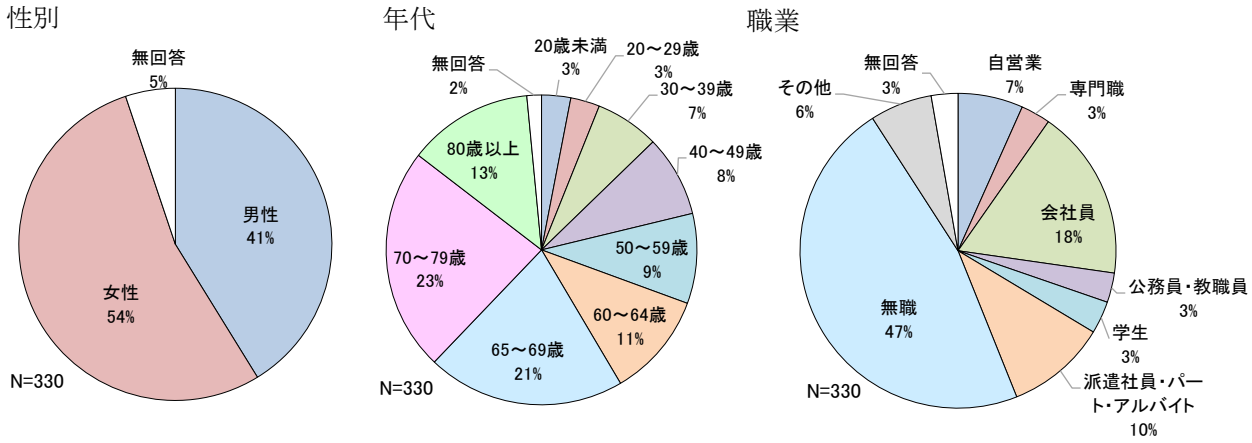


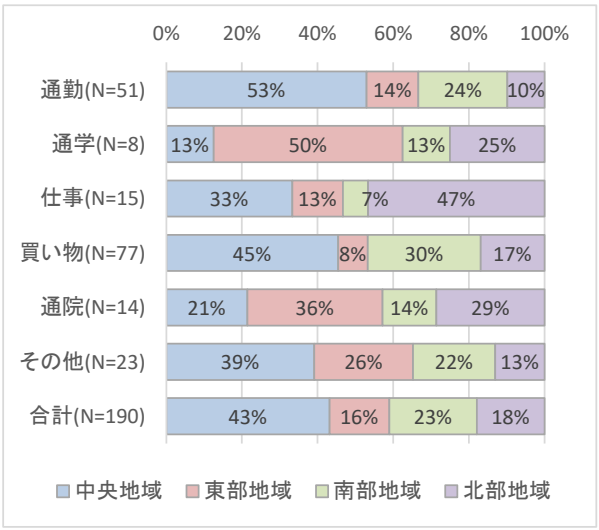
図 50　回答者の属性（性別・年代・職業）

（２）市内移動の状況

①移動の行き先

通勤では、どちらの世代も中央地域に集中する傾向にあります。
買い物や通院、その他は、目的地の地域が分散しています。

■65 歳未満



■65 歳以上

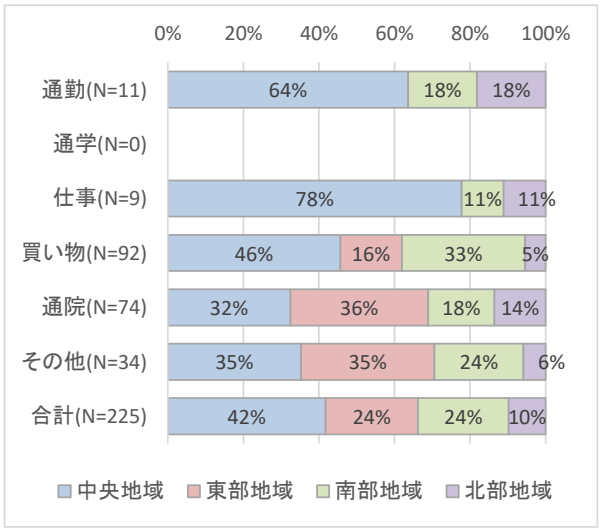


図 51　市内移動の行き先（目的別）

居住地域別でみると、市内での移動は各地域から中央地域への移動が多く見られますが、地域内での移動も見られます。

■65 歳未満　　■65 歳以上

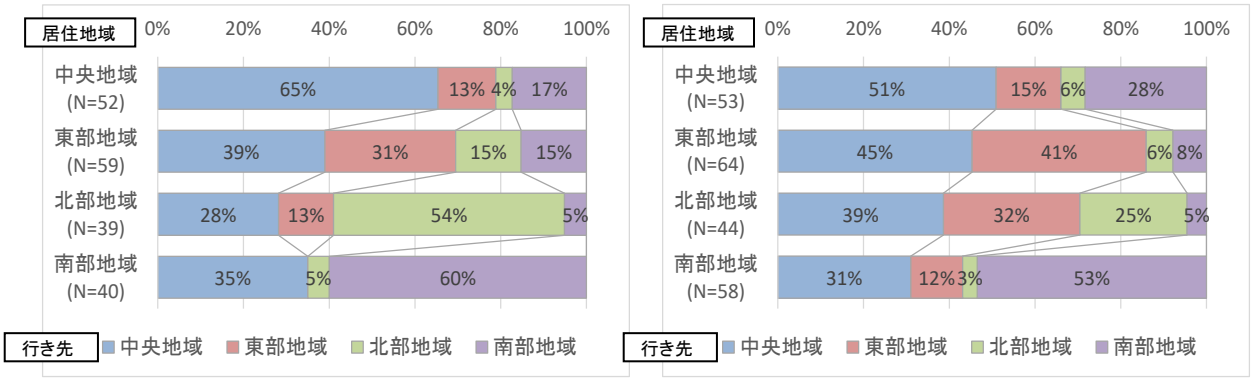


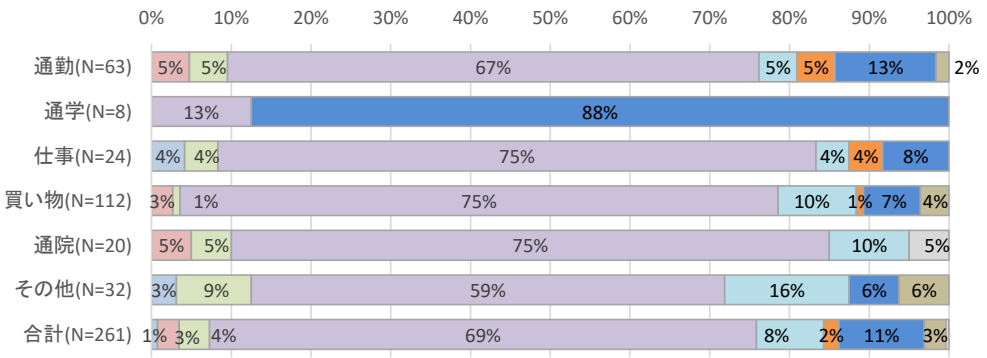
図 52　市内移動の行き先（居住地域別）

②移動手段

65 歳未満は、通学を除き全般的に自家用車での移動が多くなっています。

65 歳以上も同様の傾向ですが、買い物や通院、その他の移動目的では路線バスや鉄道、タクシーの割合が高くなっています。

■65 歳未満



■65 歳以上

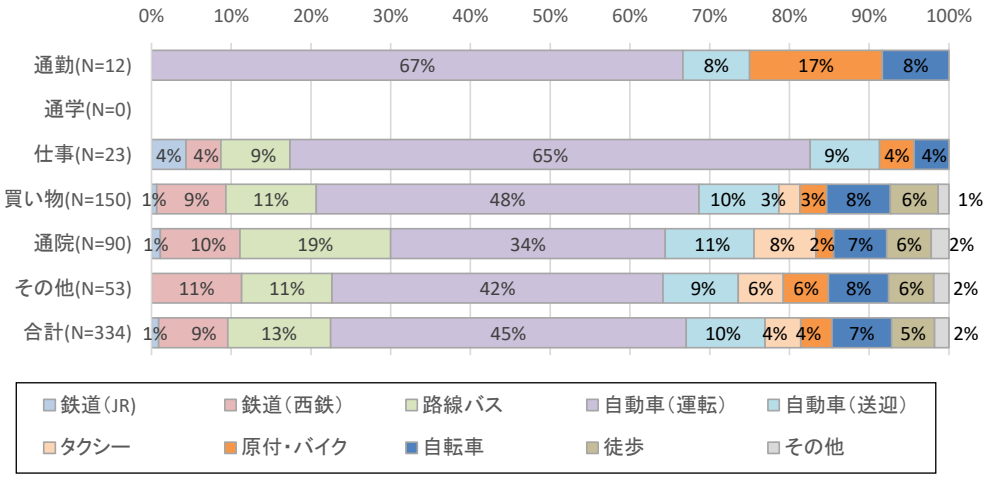


図 53　市内移動の交通手段（目的別）

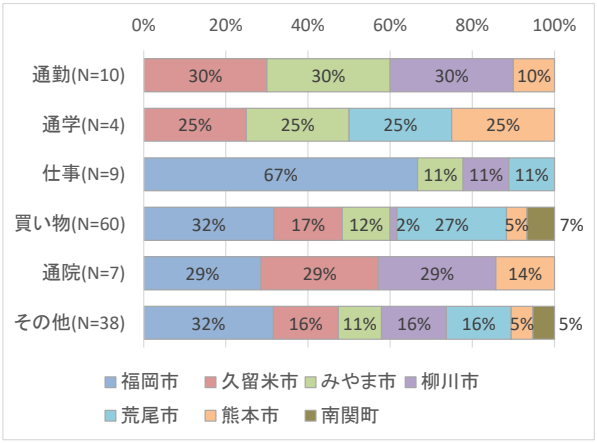
（３）市外移動の状況

①移動の行き先

65 歳未満は、通勤や通学は久留米市、みやま市への移動が見られます。買い物や通院、その他の目的では福岡市や久留米市、柳川市への移動が見られます。

65 歳以上は、福岡市への移動の他、荒尾市への移動が多く見られます。

■65 歳未満



■65 歳以上

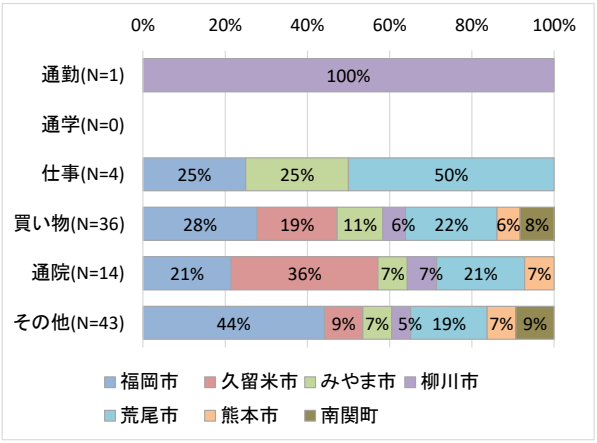
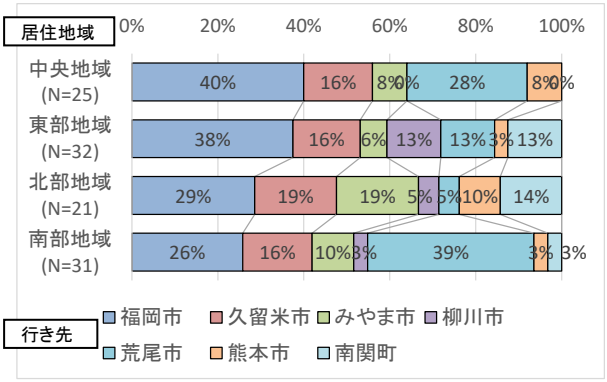


図 54　市外移動の行き先（目的別）

居住地域別でみると、市外への移動では、福岡市や久留米市への移動が多いほか、南部地域は荒尾市への移動も多く見られます。

■65 歳未満



■65 歳以上

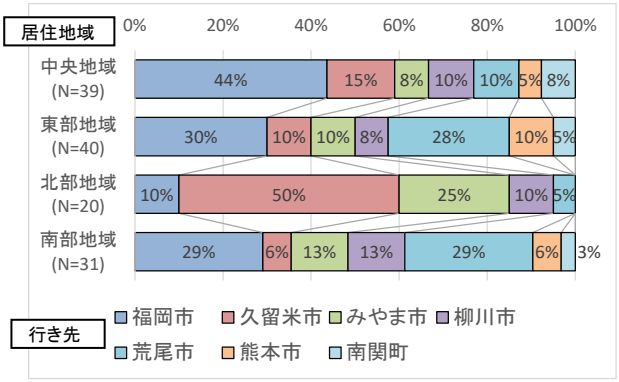


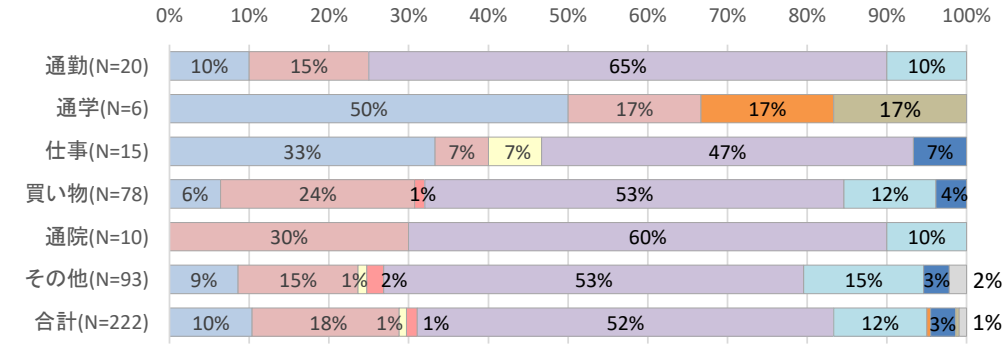
図 55　市外移動の行き先（居住地域別）

②移動手段

65 歳未満は、通学を除き全般的に自家用車（自分で運転）での移動が多くなっています。

65 歳以上も同様の傾向ですが、買い物や通院、その他の移動目的では路線バスや鉄道、タクシーの割合が高くなっています。

■65 歳未満



■65 歳以上

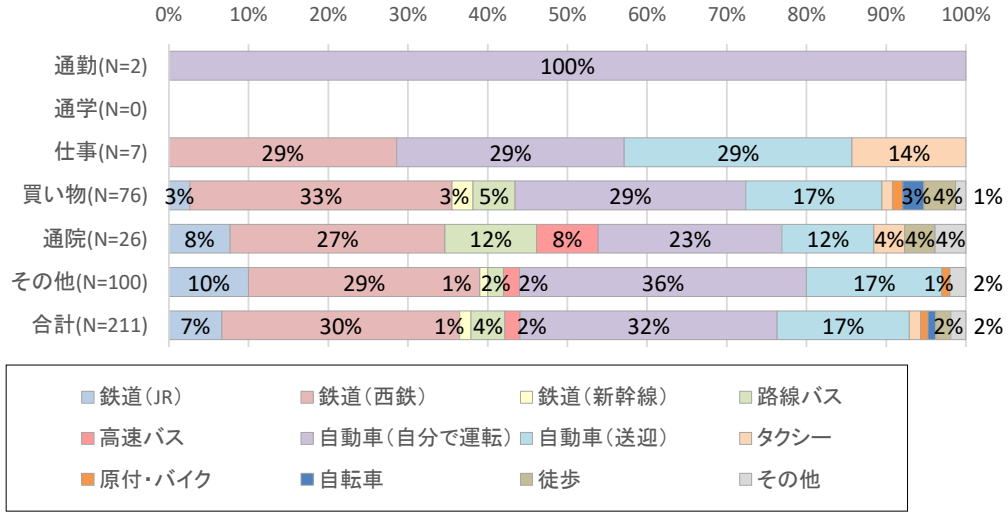


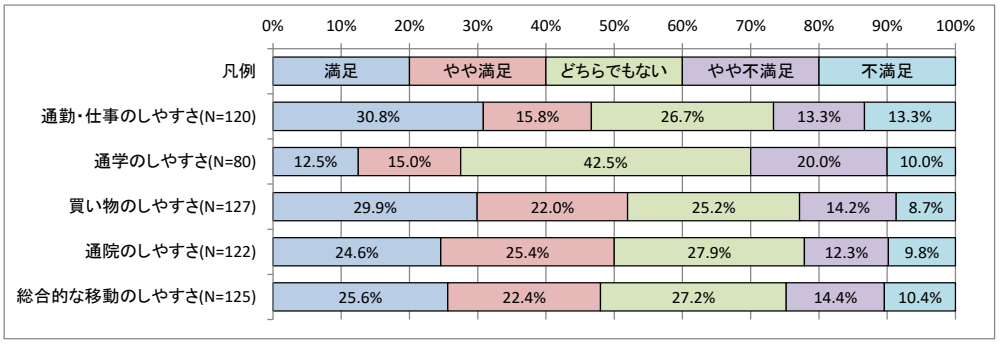
図 56　市外移動の交通手段（目的別）

（４）現在の移動への満足度

65 歳未満では、通学のしやすさで満足度が低くなっています。

65 歳以上は、総合的な移動のしやすさの満足度が、65 歳未満と比較して低くなっています。

■65 歳未満



■65 歳以上

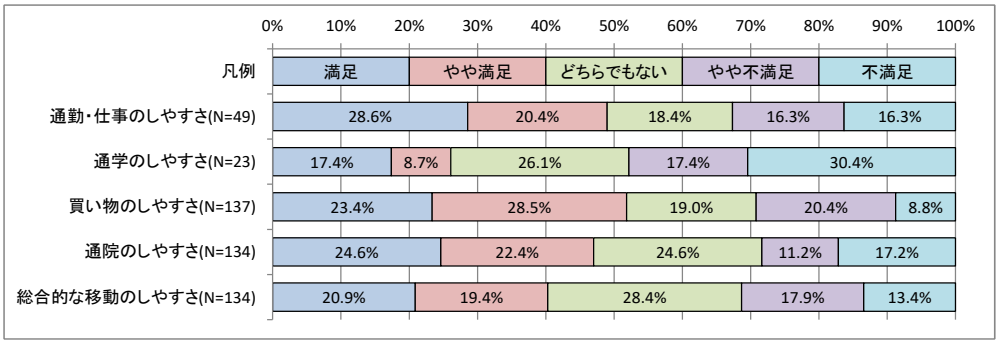
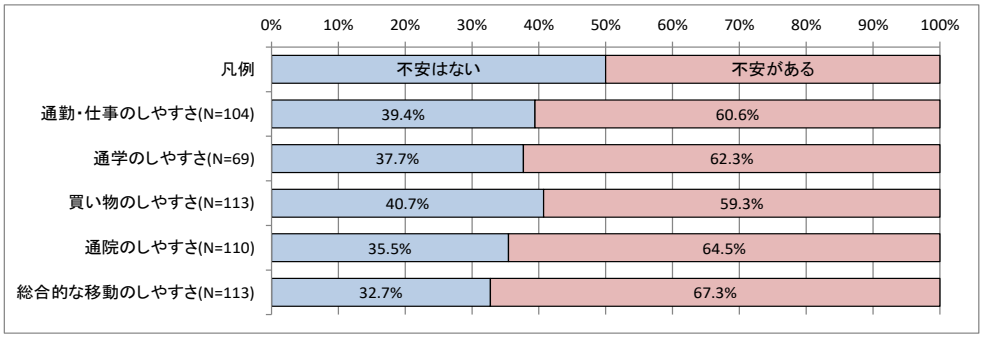


図 57　現在の移動の満足度（目的別）

（５）将来（概ね 10 年後）の移動への不安

65 歳未満、65 歳以上ともに、半数以上が将来の移動について不安があると回答しています。特に 65 歳以上は８割以上の方において不安があると回答しています。

■65 歳未満



■65 歳以上

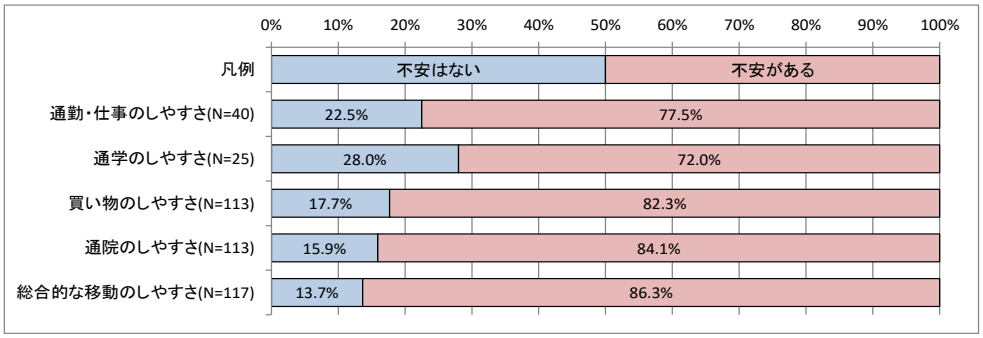


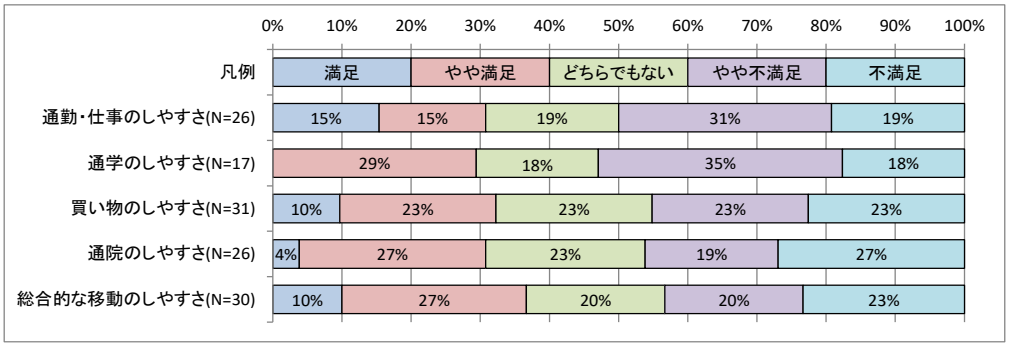
図 58　将来（概ね 10 年後）の移動への不安

４－３　公共交通利用者アンケート調査結果

（１）現在の移動への満足度

現在の移動への満足度は、市民アンケート結果（図 57）と比較すると、公共交通利用者アンケートでは不満足度は高くなっています。

■65 歳未満



■65 歳以上

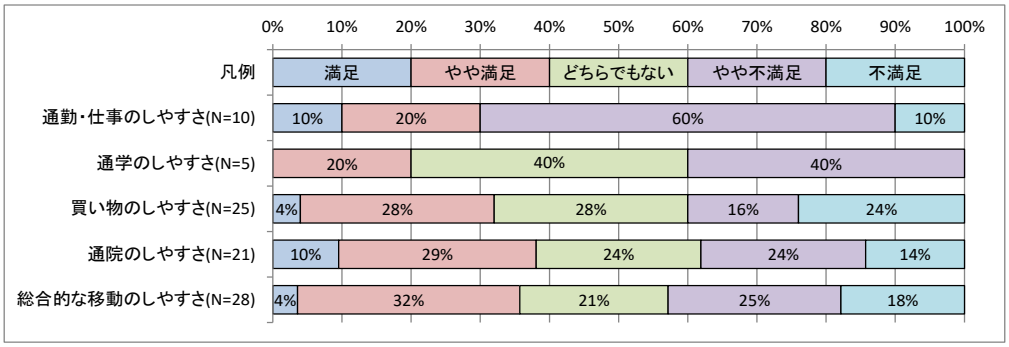
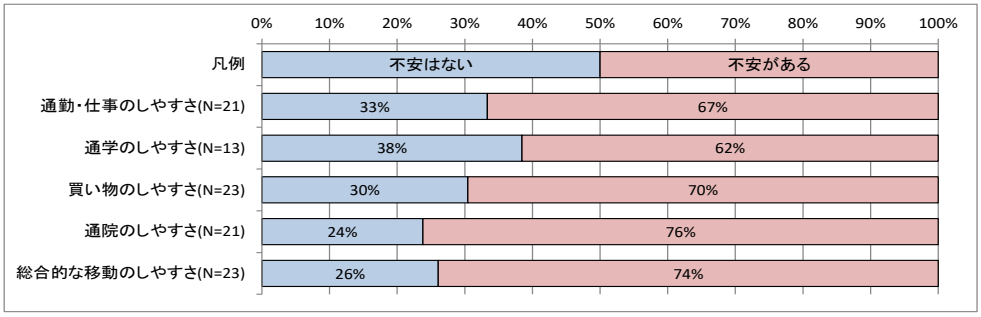


図 59　現在の移動の満足度（目的別）

（２）将来（概ね 10 年後）の移動への不安

将来の移動への不安は、市民アンケート結果（図 58）と同様に、特に 65 歳以上の方が不安に思う割合が高くなっています。

■65 歳未満



■65 歳以上

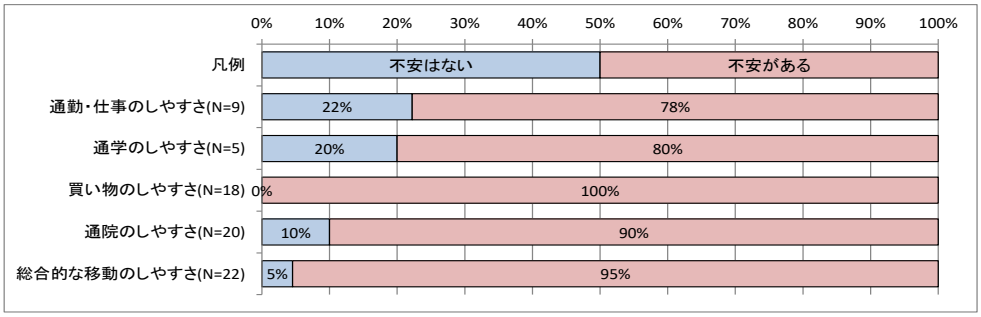


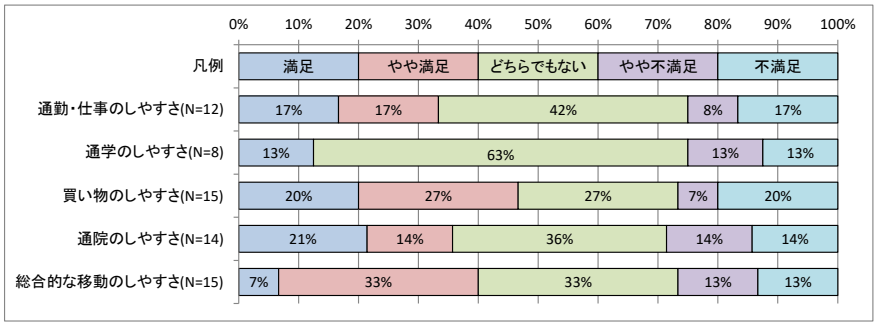
図 60　将来（概ね 10 年後）の移動への不安

４−４　買い物施設来訪者アンケート調査結果

（１）現在の移動への満足度

現在の移動への満足度は、市民アンケート結果（図 57）と比較すると、不満足度は高くなっています。

■65 歳未満



■65 歳以上

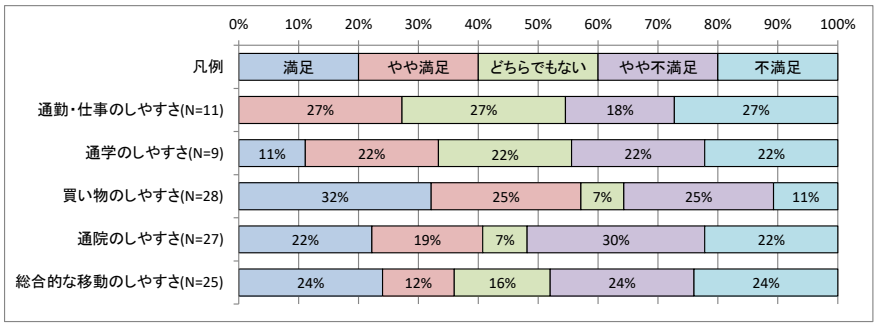
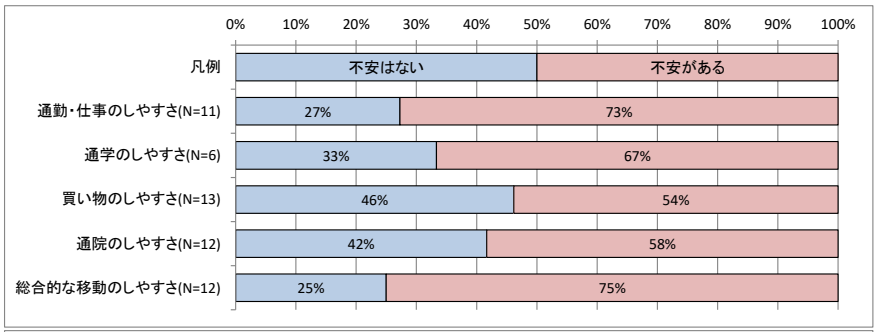


図 61　現在の移動への満足度（目的別）

（２）将来（概ね 10 年後）の移動への不安

将来の移動への不安は、市民アンケート結果（図 58）と同様に、特に 65 歳以上の方が不安に思う割合が高くなっています。

■65 歳未満



■65 歳以上

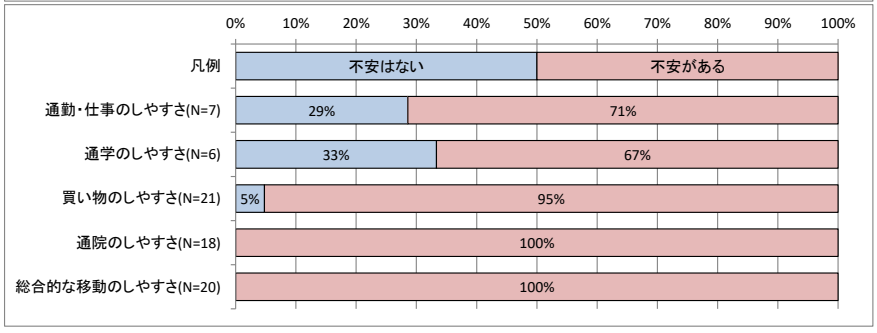


図 62　将来（概ね 10 年後）の移動への不安

４－５　市内高校等通学者アンケート調査結果

（１）回答者の居住地

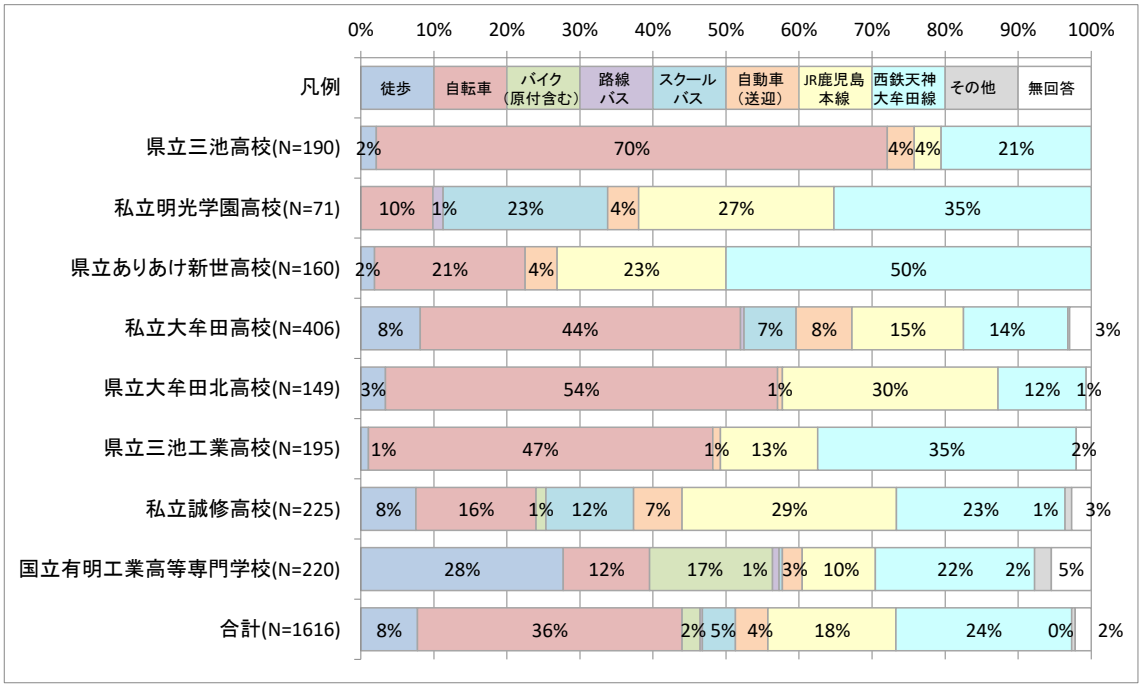
回答者の居住地は以下の通りです。大牟田市内に居住する方が多くなっており、その他、福岡県内では柳川市や久留米市、みやま市が多く、熊本県内では荒尾市からの通学者が多くなっています。

表 6　回答者の居住地

	県立三池高校	私立明光学園高校	県立ありあけ新世高校	私立大牟田高校	県立大牟田北高校	県立三池工業高校	私立誠修高校	国立有明工業高等専門学校	合計
大牟田市	147	24	66	218	108	97	71	25	756
荒尾市	0	6	0	46	0	0	24	25	101
柳川市	19	6	34	33	18	40	18	15	183
みやま市	16	2	13	45	21	22	15	4	138
久留米市	0	9	10	8	1	9	26	14	77
筑後市	0	5	18	7	0	8	13	7	58
玉名市	1	5	0	7	0	0	24	13	50
大川市	0	0	4	3	0	7	5	4	23
大木町	1	0	11	1	0	10	1	3	27
三潴郡	0	0	1	0	0	0	0	0	1
上屋敷町	0	0	0	0	0	1	0	0	1
広川町	0	0	0	0	0	1	1	0	2
大川	0	0	0	0	1	0	0	0	1
南関町	0	2	0	6	0	0	8	1	17
和水町	0	0	0	1	0	0	4	0	5
小郡市	0	0	0	0	0	0	2	5	7
玉名郡	0	0	0	0	0	0	2	0	2
山鹿市	0	1	0	0	0	0	2	0	3
大野城市	0	1	0	0	0	0	1	1	3
八女市	0	1	0	2	0	0	1	1	5
大刀洗町	0	1	0	0	0	0	1	0	2
八女郡	0	0	0	0	0	0	1	0	1
長洲町	0	5	0	3	0	0	2	2	12
福岡市	0	1	0	1	0	0	0	3	5
寄宿舎	－	－	－	－	－	－	－	63	63
無回答	6	2	3	25	0	0	3	34	73
合計	**190**	**71**	**160**	**406**	**149**	**195**	**225**	**220**	**1,616**

（２）登下校手段

自転車もしくは鉄道（西鉄大牟田線、JR 鹿児島本線）による通学が多くなっています。私立明光学園高校や私立誠修高校はスクールバスによる通学も見られます。



※移動手段のうち代表交通手段を示す

図 63　登下校時の交通手段

（３）登下校手段の満足度

登下校手段への満足度は、「とても満足」「どちらかといえば満足」とする割合が、「どちらかといえば不満」「とても不満」とする割合と比較し、高くなっています。

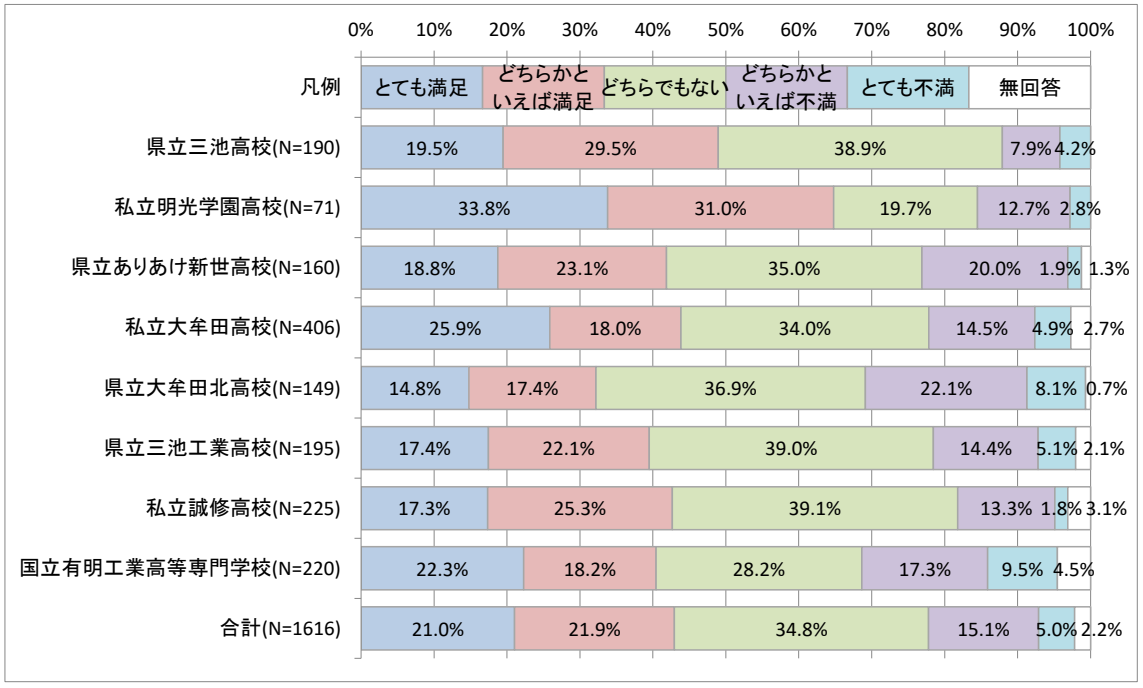


図 64　登下校手段の満足度

（４）休日の移動先

休日の移動先は、大牟田市内の移動が多くなっています。

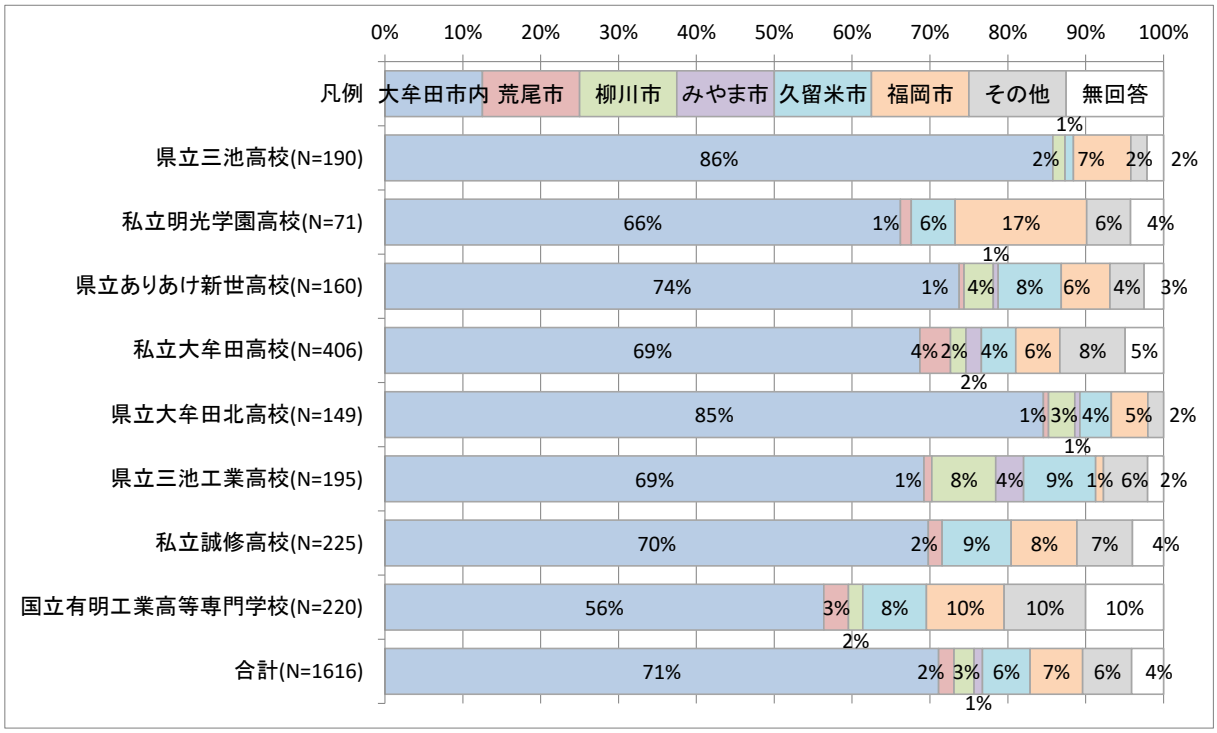


図 65　休日の移動先（行き先）

（５）休日の移動手段

休日の移動手段は、自転車の割合が高くなっているほか、路線バス、JR 鹿児島本線や西鉄天神大牟田線の割合が高くなっています。

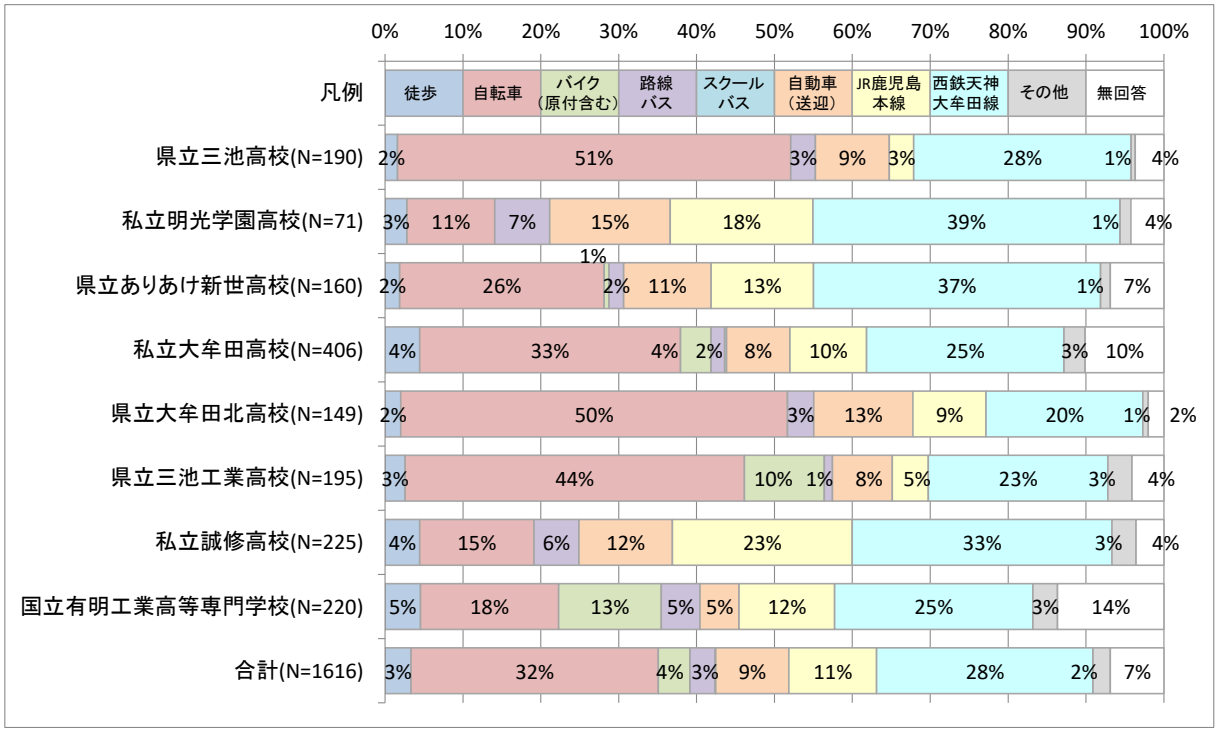
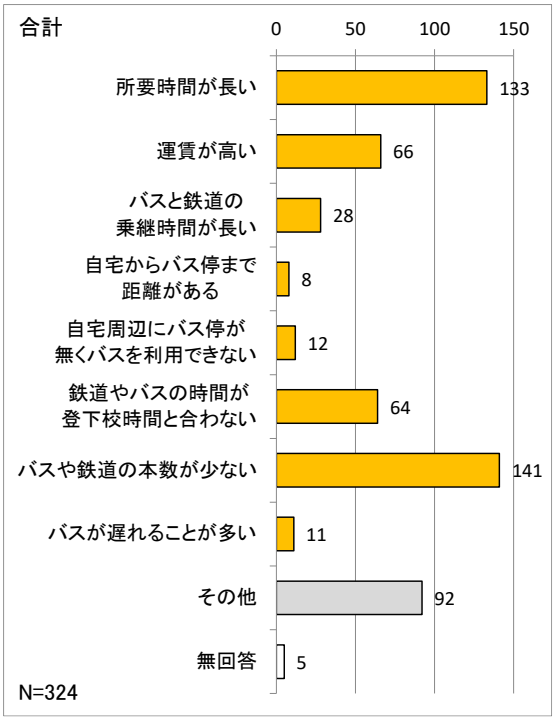


図 66　休日の交通手段

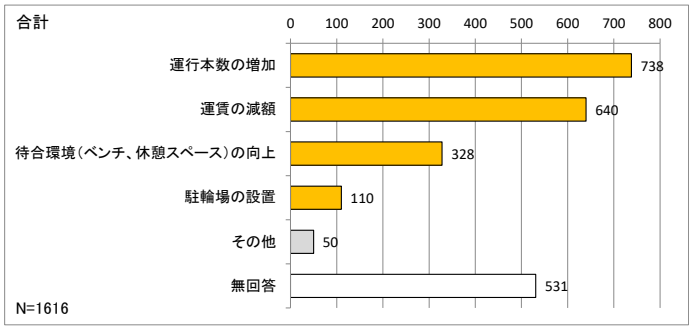
（６）登下校手段で不満に思う理由、改善要望

不満に思う理由は、「所要時間が長い」、「バスや鉄道の本数が少ない」が多くなっています。改善要望は、運行本数や運賃に関する要望の他、「遅い時間までの運行」等が多くなっています。

■登下校手段で不満に思う理由



■登下校手段の改善要望（鉄道）



■登下校手段の改善要望（バス）

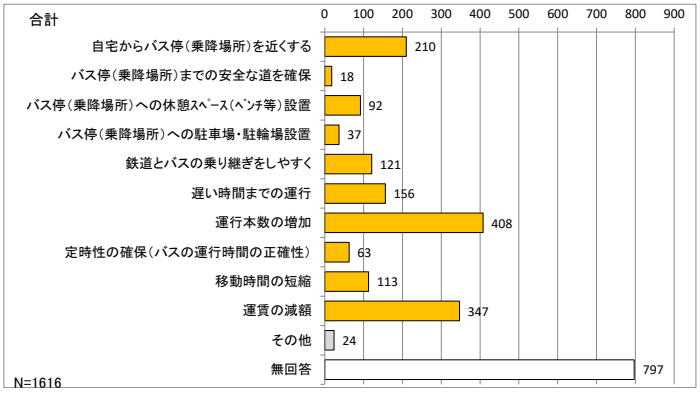


図 67　登下校手段で不満に思う理由、改善要望

４－６　観光来訪者 Web アンケート調査結果

（１）回答者の属性

年代は、20 歳代から 50 歳代が多くなっています。
居住地は、福岡県が過半数となっているほか、熊本県の方も多くなっています。
職業は会社員や専業主婦が多く、自動車免許はほとんどの方が保有しています。

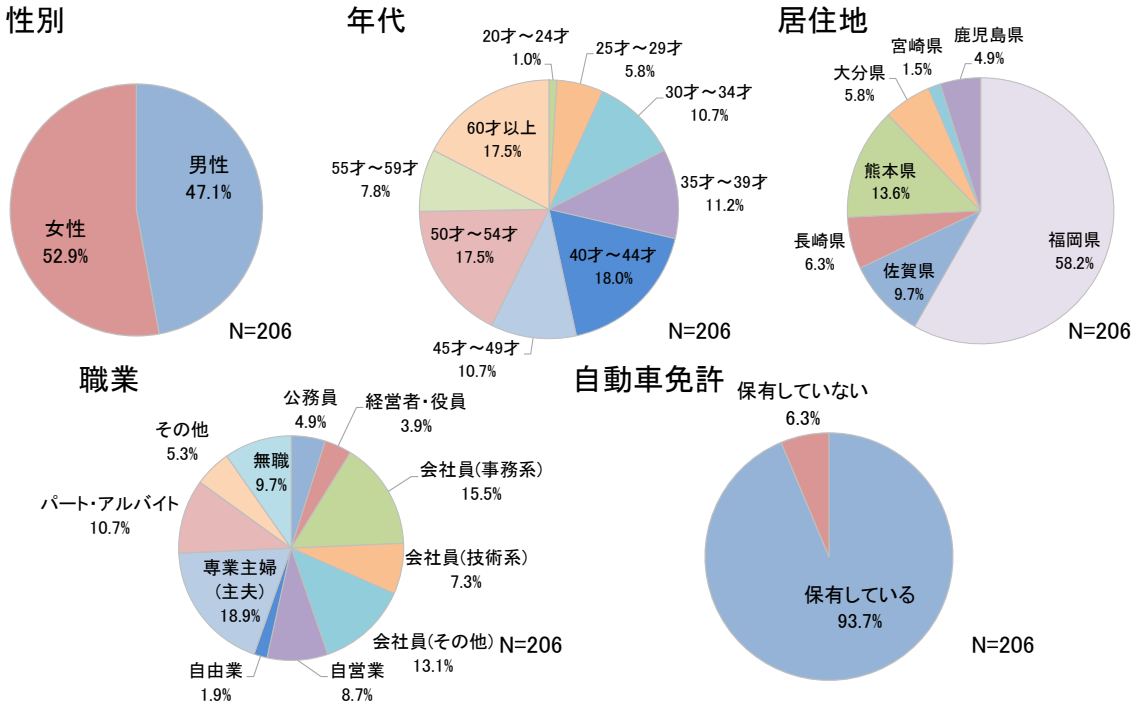


図 68　回答者の属性（性別、年代、居住地、職業、自動車免許保有の有無）

（２）観光での来訪先

観光での来訪地は、大牟田市内は大牟田市動物園、荒尾市はグリーンランドが多くなっています。

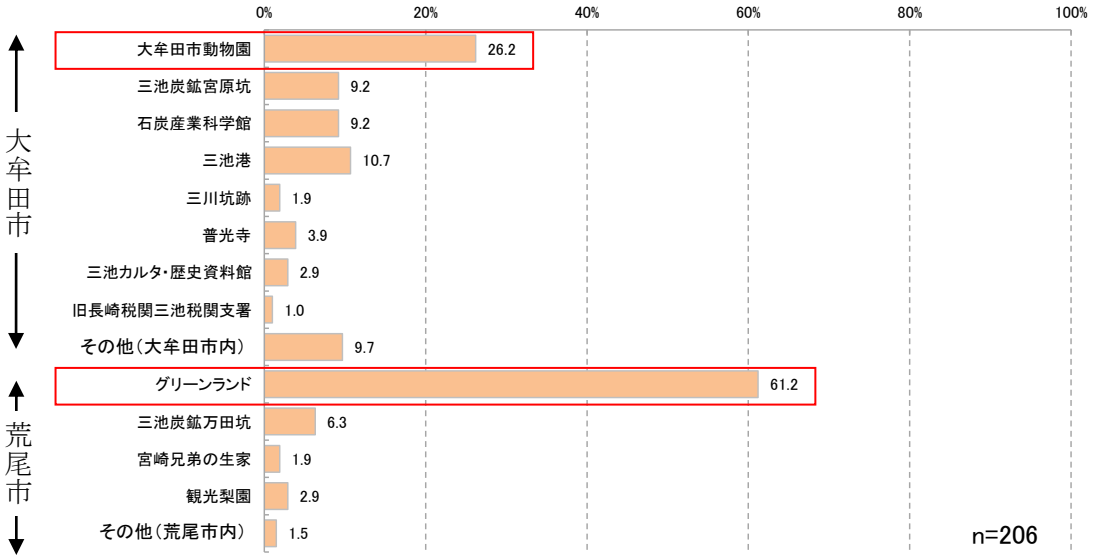


図 69　観光での来訪地（複数回答可）

（３）観光での移動手段

出発地から大牟田市までの移動手段は、自家用車での移動が多くなっていますが、鉄道での来訪も見られます。

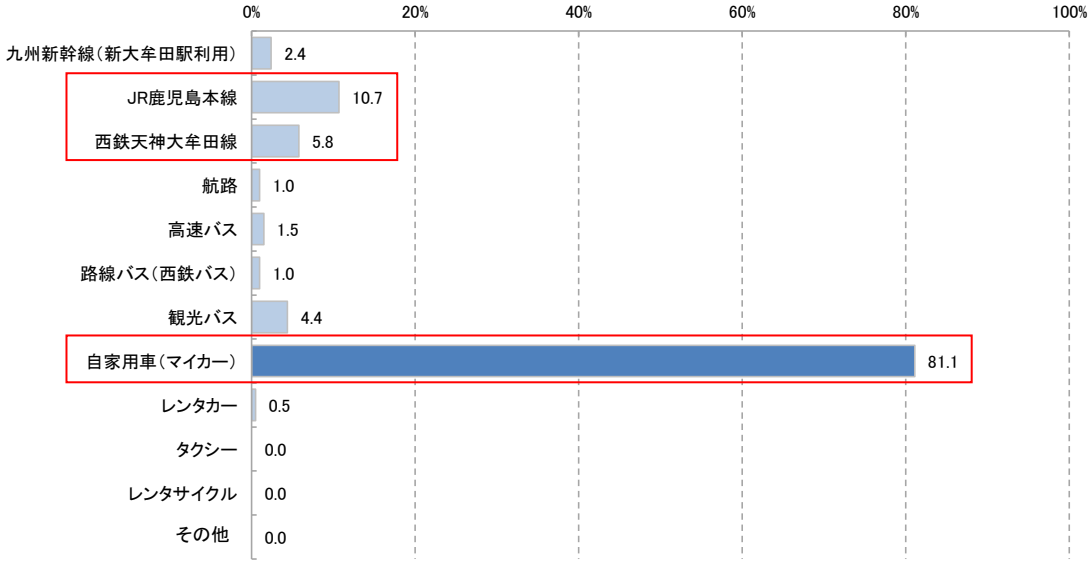


図 70　出発地から大牟田市までの移動手段（複数回答可）

市内の周遊手段は、自家用車での移動が多くなっていますが、路線バスの利用も見られます。

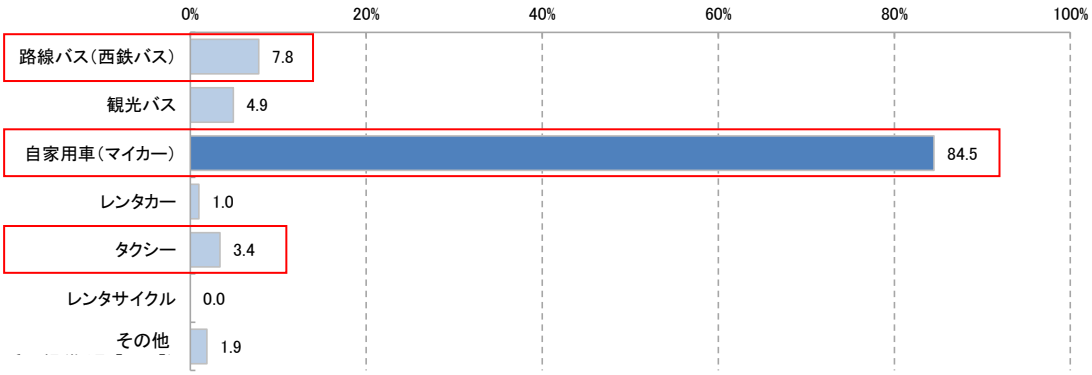
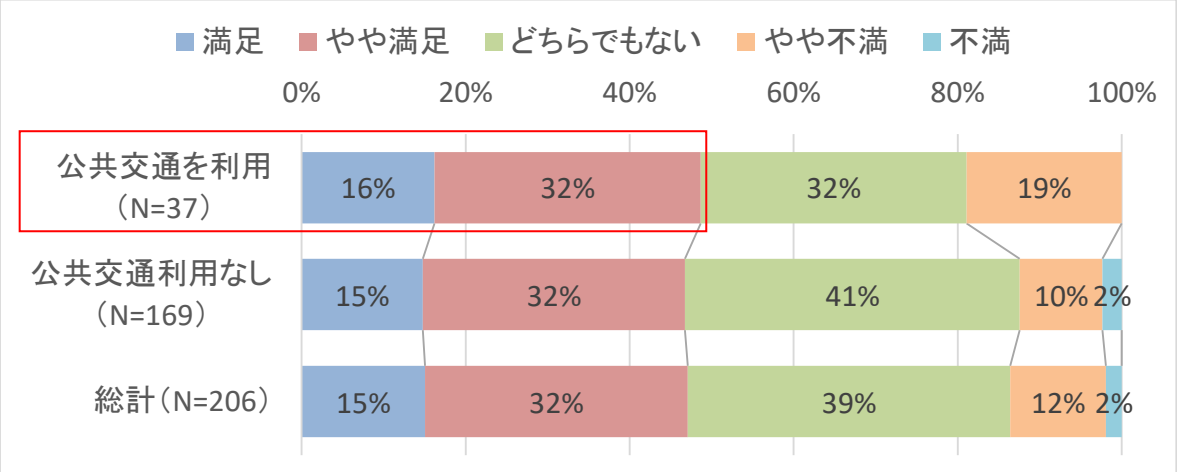


図 71　大牟田市内での周遊手段（複数回答可）

（４）観光移動への満足度

観光移動への満足度について、公共交通を利用した方は、出発地から大牟田駅間、市内での周遊移動に関し、満足している傾向があります。

〇出発地から大牟田駅までの移動への満足度



〇大牟田市内での周遊移動に関する満足度

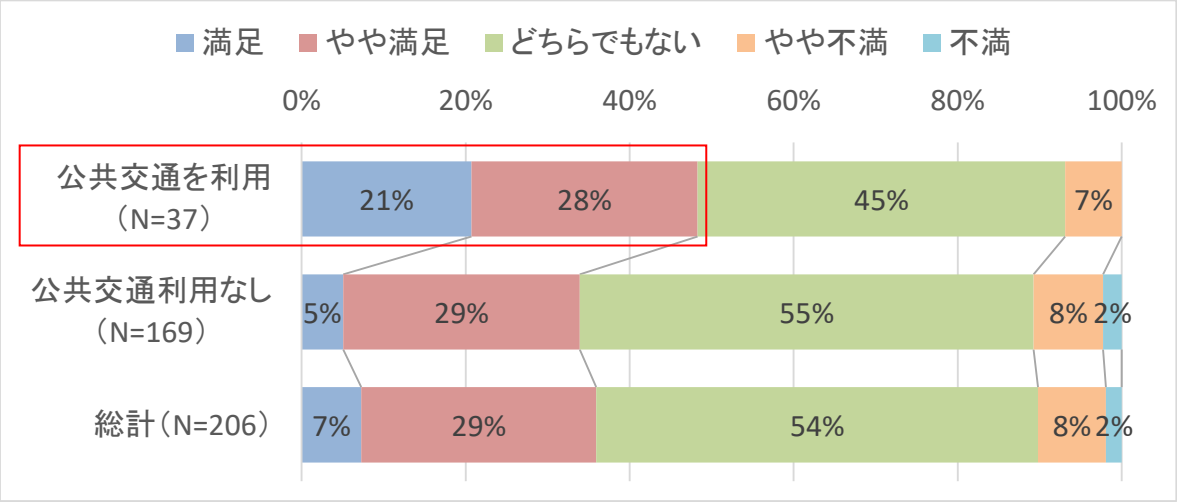


図 72　大牟田市への観光移動の満足度

（５）観光移動での公共交通へのニーズ

大牟田市内での観光移動で、公共交通を利用するとした場合のニーズについては、路線バスのアクセス性の改善、近隣市町の観光地を周遊する路線バスの運行、鉄道と路線バスのダイヤ接続の改善、鉄道の運行本数の増加が高くなっています。

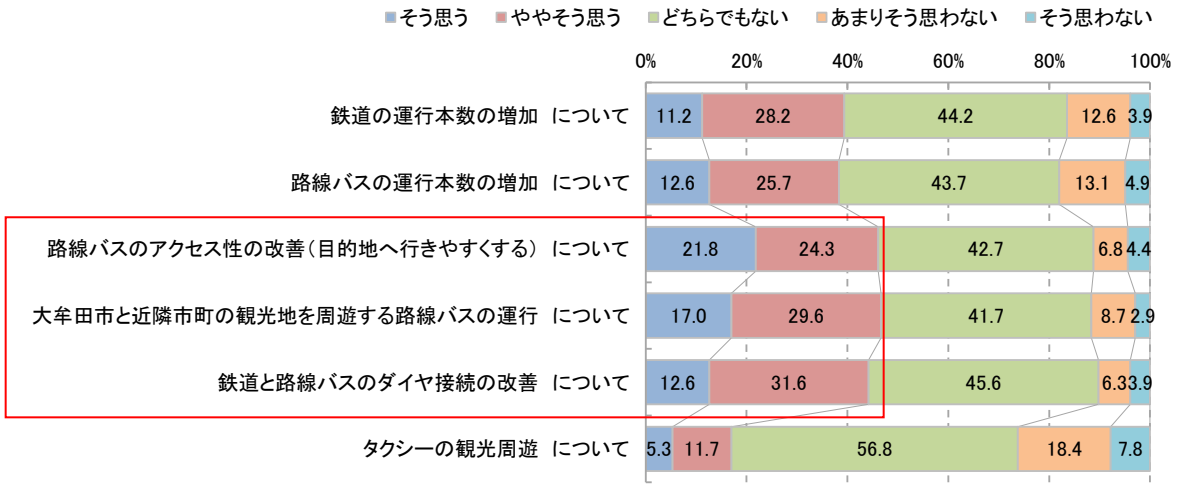


図 73　大牟田市内の観光移動の満足度

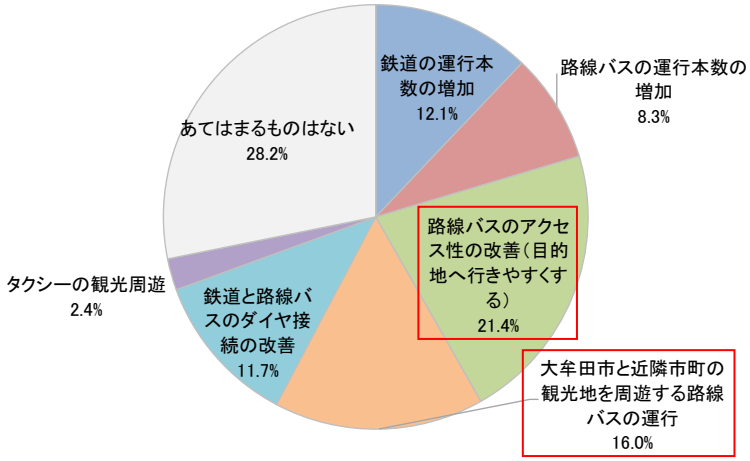


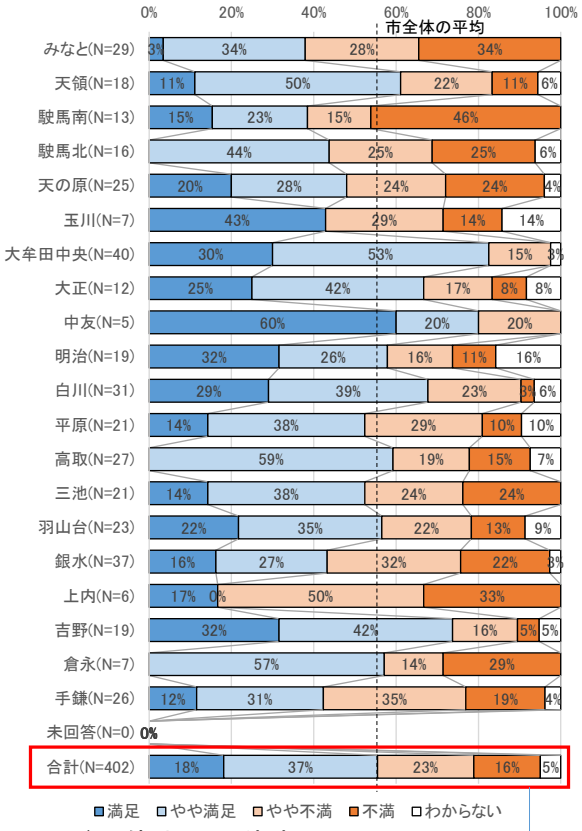
図 74　大牟田市内の観光移動で公共交通を利用する際に最も重視するもの

４－７　立地適正化計画策定アンケート調査結果

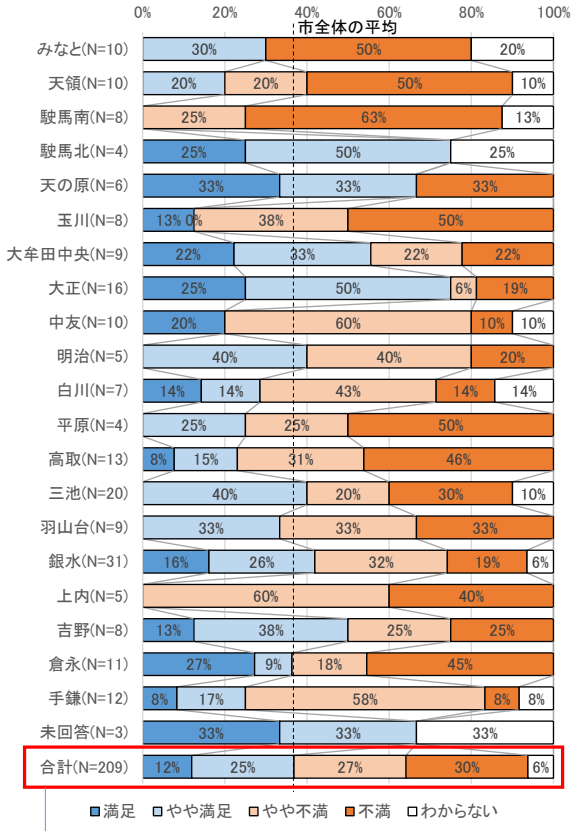
（１）市民の公共交通に対する満足度、重要度

公共交通の満足度は、郊外部の小学校区で満足度が低くなっています。
バス停までの徒歩時間が長い場合、満足度が低くなる傾向にあります。

■公共交通の満足度（バス停まで徒歩5分以内の方）



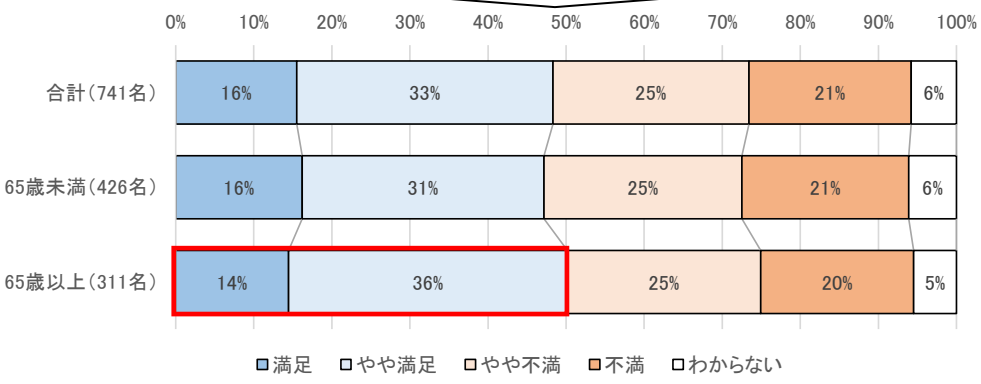
■公共交通の満足度（バス停まで徒歩5分以上の方）



※バス停までの徒歩時間が無回答の方は対象外

バス停まで徒歩5分以上の方の満足度は、バス停まで徒歩5分以内の方と比較して低い

合　計



※バス停までの徒歩時間が無回答の方も含む
※合計は年代が無回答の方を含む
※65 歳以上で「満足」「やや満足」とした割合は 50.2%である。（図の数値は小数点を四捨五入した整数表示）

図 75　市民の公共交通に対する満足度

公共交通の重要度は、どの小学校区においても高くなっています。バス停までの徒歩時間による重要度の違いは、満足度と比較すると差は無く、重要視されています。

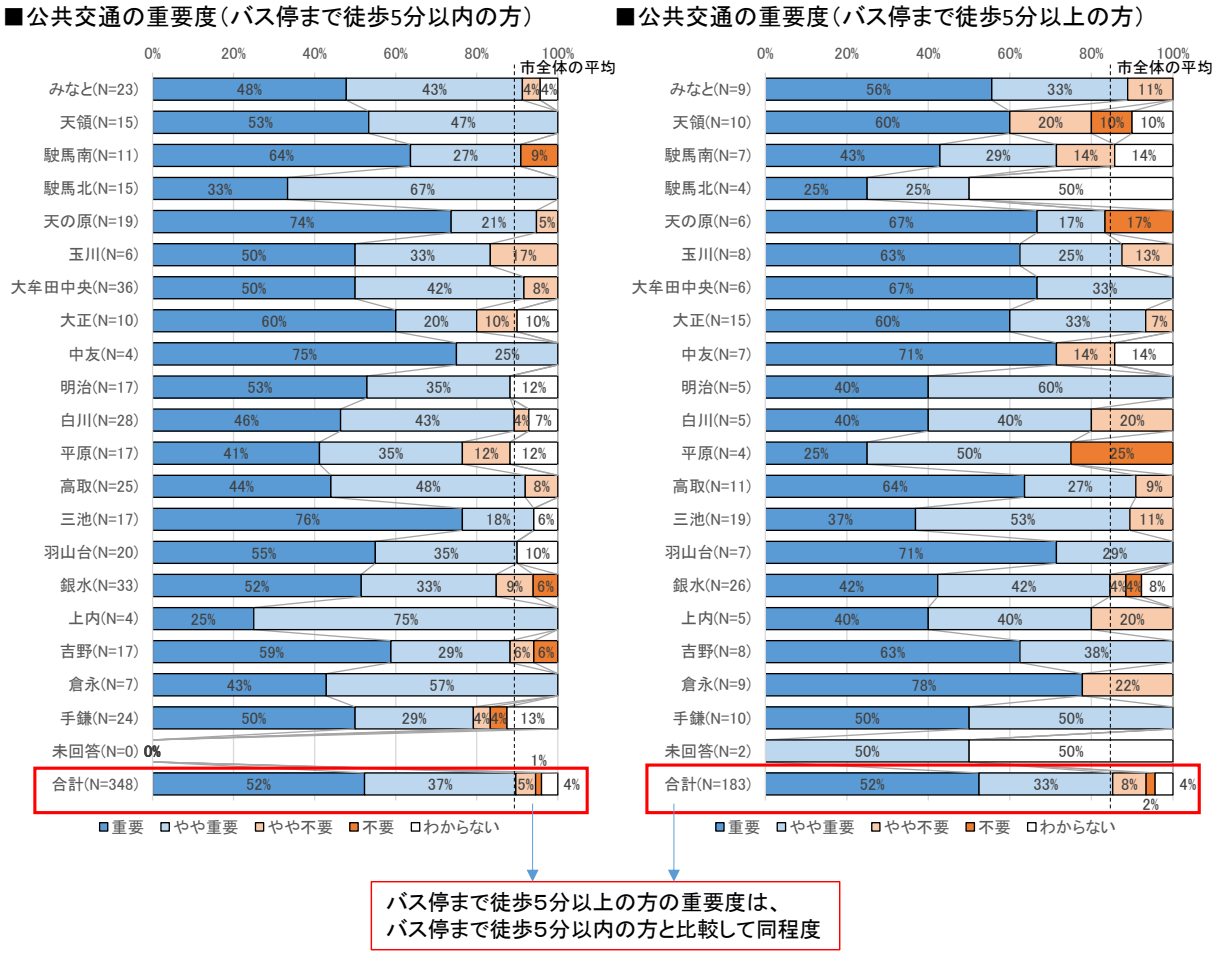
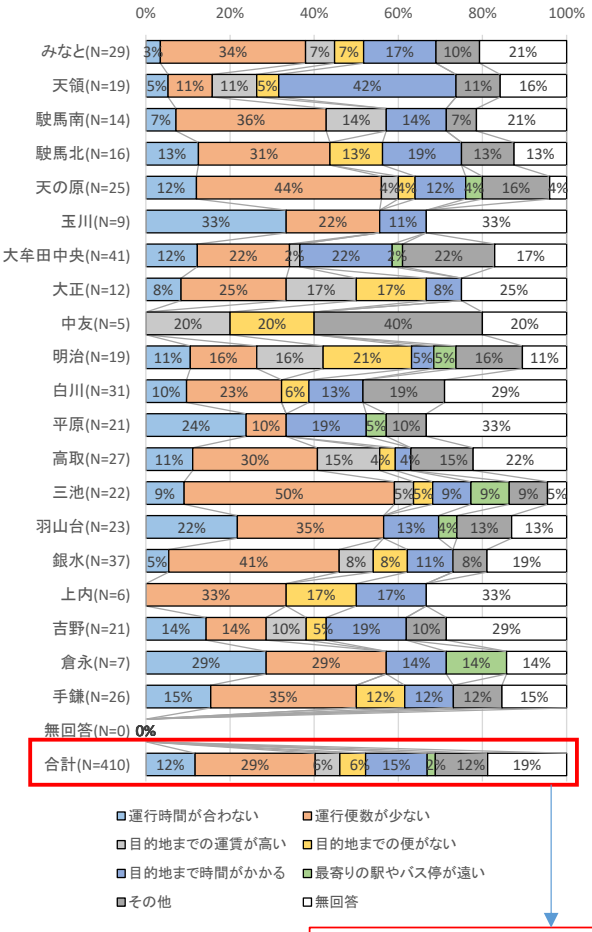


図　76　市民の公共交通に対する重要度

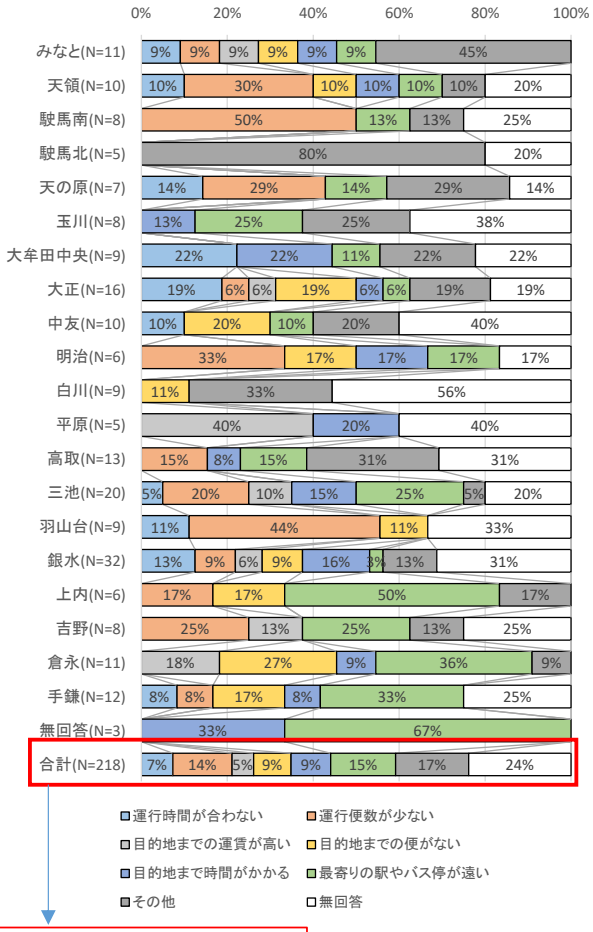
（２）公共交通を利用しない理由

公共交通を利用しない理由は、「運行時間が合わない」「運行便数が少ない」「目的地まで時間がかかる」等の割合が高くなっています。バス停まで徒歩 5 分以上の方では、「最寄りの駅やバス停が遠い」が多くなっています。

■公共交通を利用しない理由
（バス停まで徒歩5分以内の方）



■公共交通を利用しない理由
（バス停まで徒歩5分以上の方）



バス停まで徒歩5分以上の方の利用しない理由は、
バス停まで徒歩5分以内の方と比較し、
「最寄の駅やバス停が遠い」の割合が高い

図 77　公共交通を利用しない理由

（３）市民の公共交通に関する改善要望

公共交通の改善要望は、「運行時間帯の利便性を向上」、「運行本数を増やす」等の割合が高くなっています。バス停まで徒歩 5 分以上の方では、「駅・バス停を近くに増やす」の割合が高くなっています。

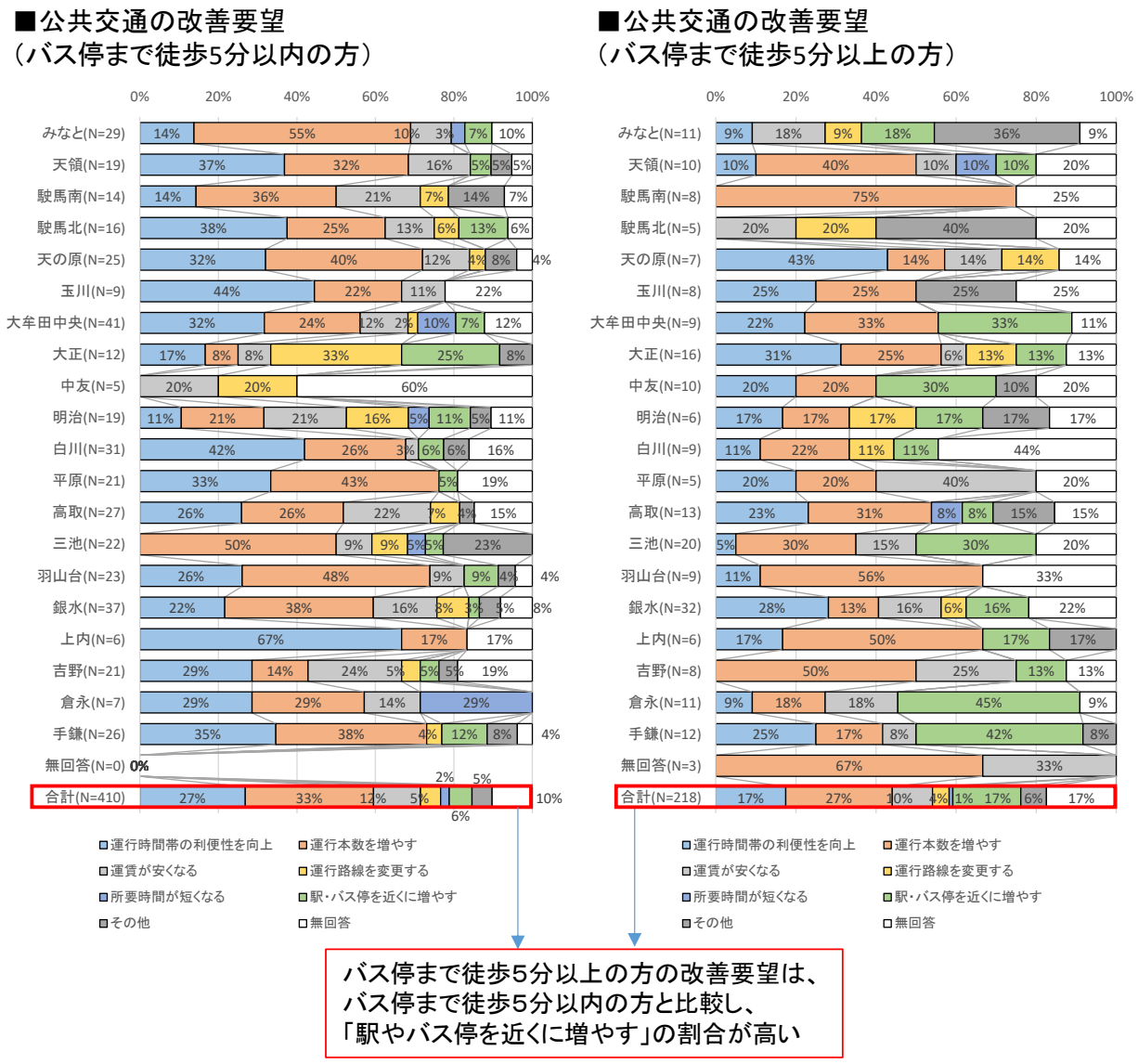


図 78　市民の公共交通に対する改善要望

４−８　荒尾市、みやま市でのアンケート調査結果

（１）荒尾市から大牟田市への移動状況（荒尾市の市民アンケート調査より）

荒尾市から大牟田市への移動は、高齢者、勤労世代ともに、通勤や娯楽・イベント参加で一定の移動が見られます。

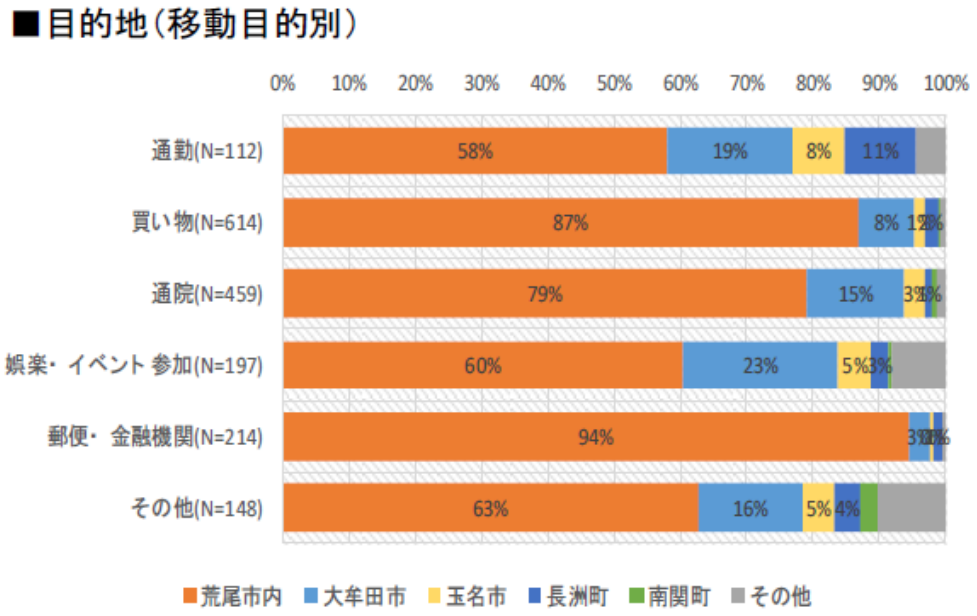


図 79　高齢者（65 歳以上）の移動目的ごとの移動先

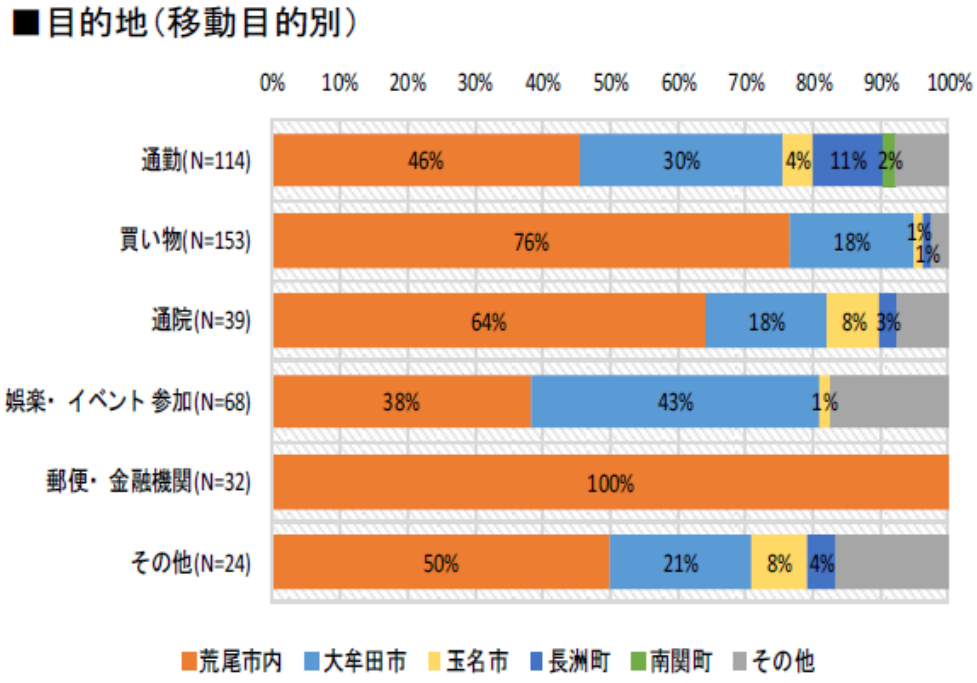


図 80　勤労世代（19～64 歳）の移動目的ごとの移動先

外出時の移動手段は、高齢者、勤労世代ともに、自家用車が多くなっています。高齢者は勤労世代と比較して、自家用車（家族・知人の送迎）及び路線バスの割合が高くなっています。

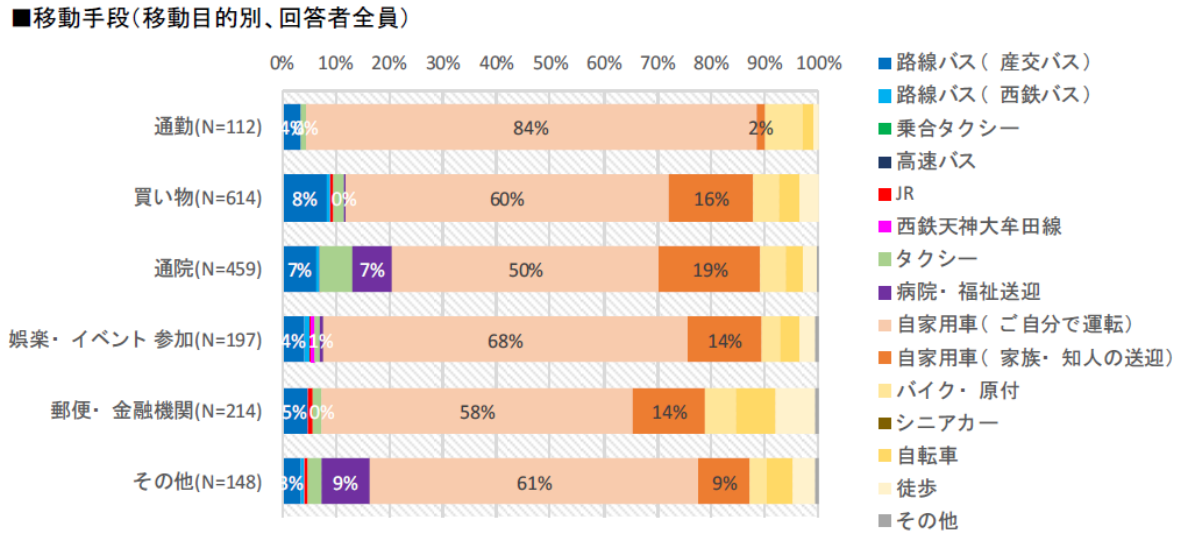


図 81　高齢者（65 歳以上）の移動目的ごとの移動手段

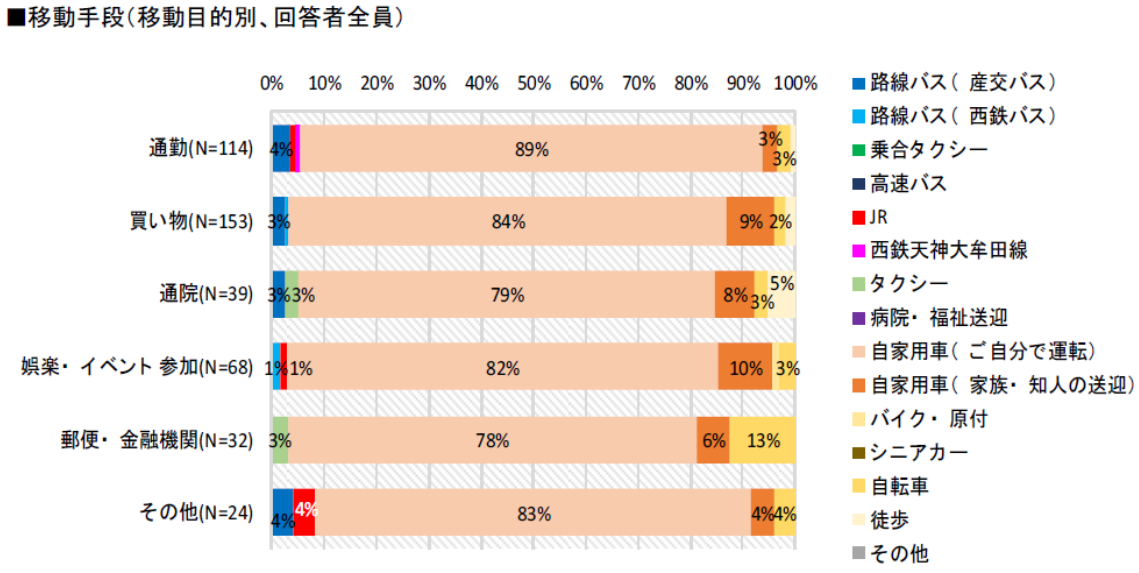


図 82　勤労世代（19～64 歳）の移動目的ごとの移動手段

（２）荒尾市から大牟田市への移動状況（荒尾市の高校生アンケート調査より）

荒尾市に居住する高校生の休日の移動先は、荒尾市内と同程度で大牟田市が多くなっています。

大牟田市内の移動先は、イオンモール大牟田が多くなっています。

移動手段は、JR が多いほか、自家用車（家族の送迎）も多くなっています。

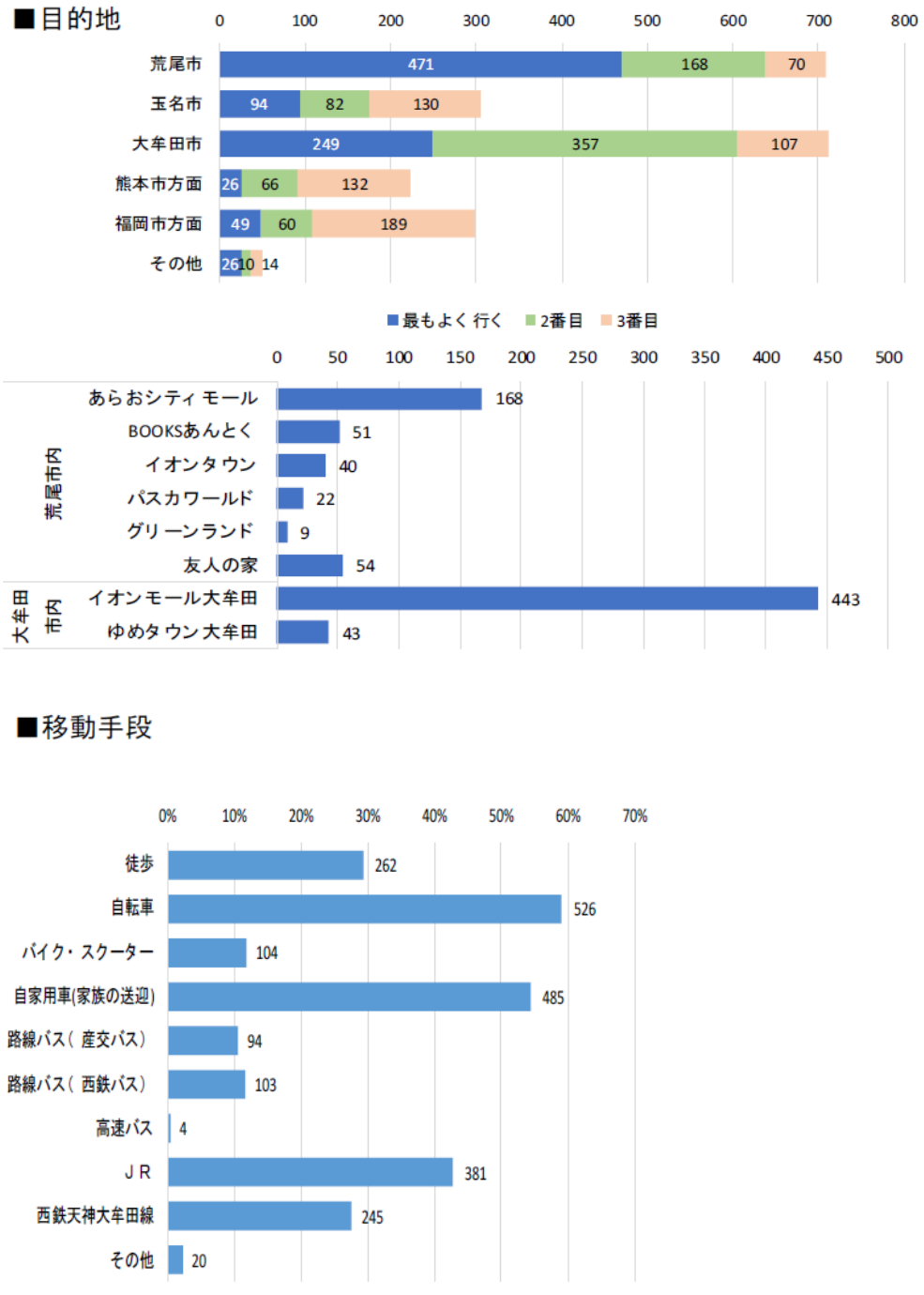


図 83　荒尾市内居住高校生の休日の外出先及び移動手段

（３）公共交通の改善ニーズ（荒尾市の市民アンケート調査より）

荒尾市民において、公共交通を改善する際に重視することは、高齢者、勤労世代ともに「１日のバスの運行便数」が多くなっていますが、「バスや JR 等との接続（乗り継ぎ）」も多くなっています。

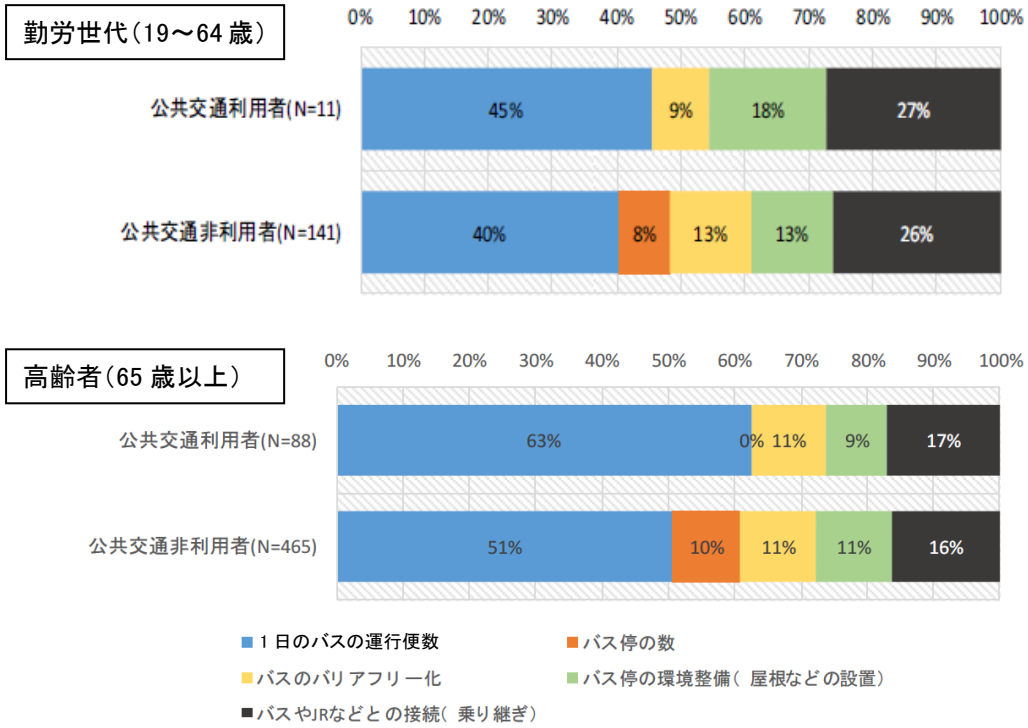


図 84　公共交通を改善する際に求める内容

（４）みやま市から大牟田市への移動状況（みやま市の市民アンケート調査より）

みやま市から大牟田市への移動については、みやま市の南部（高田地区）から大牟田市へ、買い物や通院での移動が多く発生しています。移動手段は、買い物、通院ともに自動車での移動が多くなっています。

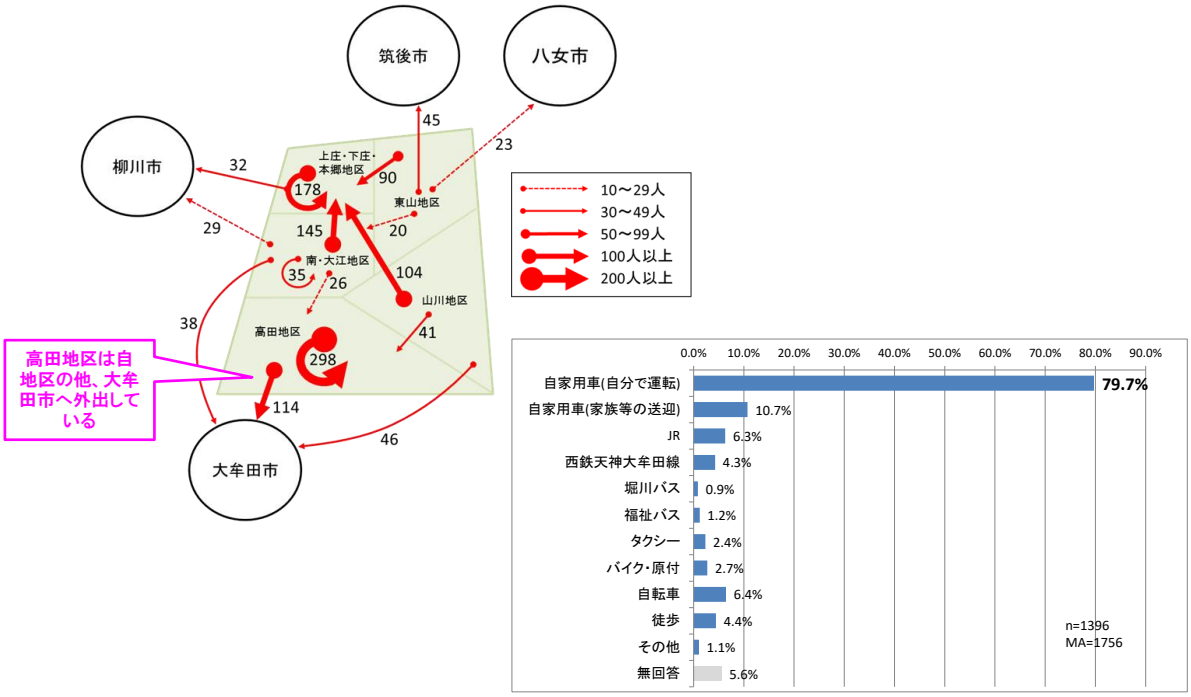


図 85　みやま市民の買い物先及び買い物の移動手段

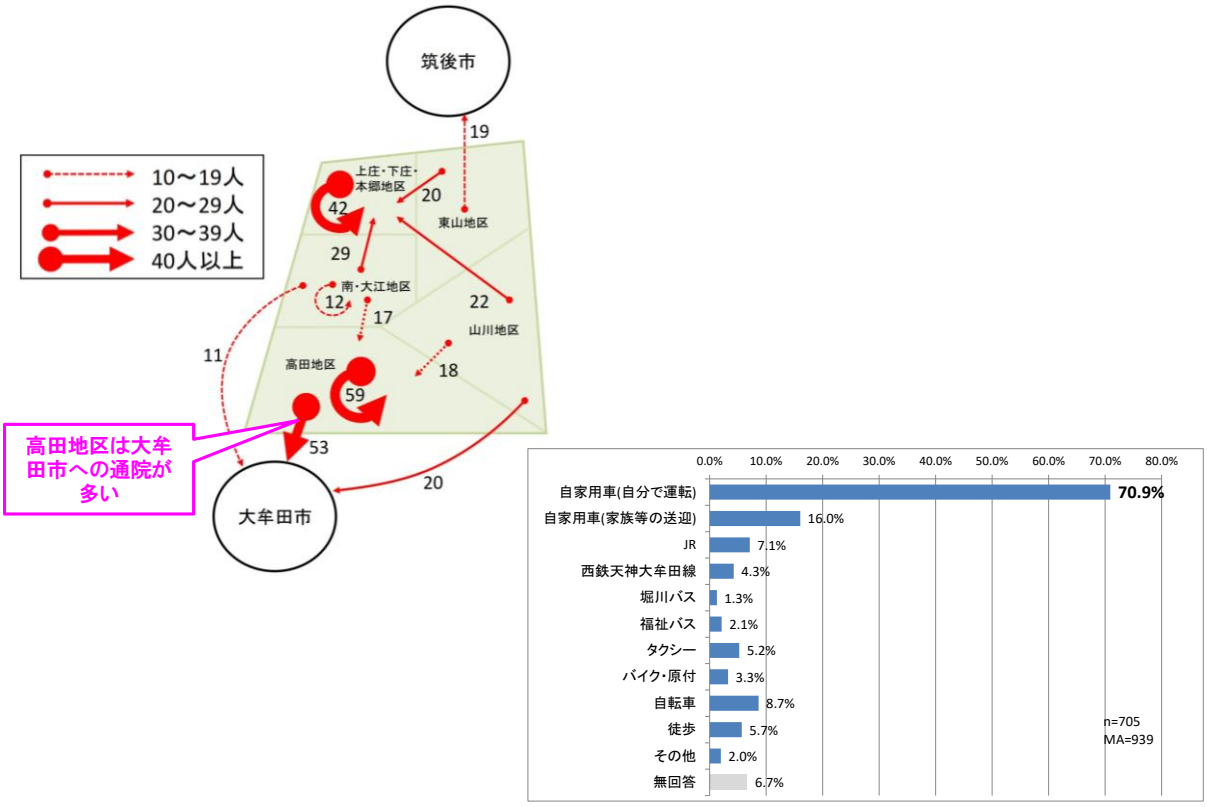


図 86　みやま市民の通院先及び通院の移動手段

４－９　調査結果のまとめ

（１）市内外の移動

把握されたこと	課題として考えられること
【市民アンケート調査より】 ・大牟田市と周辺市町間の移動では、荒尾市や柳川市、みやま市等からの流入・流出ともに多くみられる状況です。県内各地との移動手段は鉄道の割合が高く、荒尾市との移動手段は自動車の割合が高い状況です。 ・高齢者が将来の移動への不安を感じている割合が高い傾向にあります。	→大牟田市と荒尾市やみやま市等の周辺市町間で、自動車による移動が多くなっています。高齢化が進む中、自動車の運転ができなくなった場合には、移動困難者となる可能性があります。その際、現在行っている市外移動を支える交通手段が必要となります。
【荒尾市のアンケート調査より】 ・高齢者、勤労世代ともに、娯楽やイベント参加等で、荒尾市から大牟田市への移動が多く見られますが、移動手段は自動車が主となっています。 ・休日での高校生による荒尾市から大牟田市への移動も多く、その目的地はイオンモール大牟田が多くなっています。 ・公共交通を改善する際に重視することとして、バスの運行便数の増加が最も多いですが、路線バスや JR 等との接続（乗り継ぎ）も多くなっています。	→休日での高校生による荒尾市から大牟田市（イオンモール大牟田）への移動が多い傾向にあることから、高校生に対する大牟田市側への移動に関し、対応が必要となります。また、バスや JR の接続改善等が求められています。
【みやま市のアンケート調査より】 ・買い物や通院目的で、みやま市南部から大牟田市への移動が多く見られます。	→大牟田市とみやま市が隣接する地域では両市間の移動が多い傾向にあることから、この地域の移動を公共交通でも確保することが求められています。
【観光来訪者 WEB アンケート調査より】 ・観光での来訪及び周遊の手段は自動車がほとんどですが、鉄道等での来訪もあります。	→観光客の公共交通へのニーズとして、観光施設への路線バスによるアクセスや鉄道と路線バスの接続等が求められています。

・公共交通へのニーズとして、路線バスでの観光地へのアクセス、鉄道と路線バスの接続改善が多くなっています。	

（２）市内の移動

把握されたこと	課題として考えられること
【市民アンケート調査より】 ・大牟田市内の移動は、居住地域もしくは中央地域を目的地とした移動が多い状況です。 ・買い物や通院、私事の移動先として、居住する地域外への移動も多くみられます。	→市内移動として、各地域から市中心部への移動が多くなっています。高齢化が進む中、自動車の運転ができなくなった場合には、移動困難者となる可能性があります。その際、各地域と市中心部とを結ぶ交通手段が必要となります。
【市民アンケート調査より】 ・主な移動手段は自動車が多い傾向にありますが、65 歳以上は 65 歳未満の年齢層と比較して、路線バスの利用が見られるほか、自動車（送迎）での移動が多くなっています。	→高齢者は普段の移動で路線バスを利用している方が一定数見られるため、移動手段の確保として、公共交通を維持していくことが求められます。 →また、家族等の送迎で移動している方も見られますが、運転者の高齢化等により送迎が受けにくくなる可能性もあります。

（３）満足度・ニーズ

把握されたこと	課題として考えられること
【市民アンケート調査より】 ・公共交通利用者は移動の満足度が低くなっている傾向にあり、さらに将来の不安も高い傾向にあります。 **【公共交通利用者、買い物施設来訪者アンケート調査より】** ・移動の満足度が市民アンケート調査結果と比較して低くなっており、将来の移動への不安も高くなっています。	→外出において公共交通を必要としている方に対しての移動手段の維持･確保をすることで、移動の満足度を高め、また将来の不安を軽減させていくことが求められます。
【立地適正化計画策定時のアンケート調査より】 ・公共交通に対する満足度は、駿馬南小や駿馬北小、天の原小や玉川小等を中心に、郊外部の小学校区で満足度が低くなっています。 ・路線バス停から徒歩 5 分以上に居住の方は、鉄道駅や路線バス停を近くに増やすことに対する意見が多くなっています。	→満足度向上に向けた対応が求められています。 →路線バス停から離れて居住する方は、路線バス停を近くにしてほしいというニーズがあり、今後の高齢化の進展に伴い、このようなニーズがさらに高まる可能性があります。